

2019 年度 RISTEX 委託調査

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域  
事後評価のための領域ステークホルダー調査

(「平成 31 年度に実施する研究開発領域の評価に向けた情報収集」報告書)

2019 年 8 月 30 日

株式会社クロス・マーケティング

## 目次

I. 調査概要	3
II. 調査結果	8
1. ストーリー	8
1.1 外部環境の変化と対応(AD の回答)	8
2. プロセス	9
2.1 プロジェクト推進に関わる領域活動	9
2.2 領域としての成果創出を目指す活動(AD の回答)	14
3. アウトカム	17
3.1 成果創出、目標達成	17
3.2 成果の普及展開	22
3.3 意識や行動の変化	29
4. 領域の意義	32
4.1 AD の回答、自由意見から	32
4.2 PJ 実施者の回答、自由意見から	33
4.3 成果の担い手・受け手の自由意見から	36
5. RISTEX 方針との整合性	37
5.1 「問題の関与者やユーザーとの共同」への整合性	37
5.2 「研究開発の実施段階から成果の『社会実装』を十分に意識」への整合性	40
6. 意見・提案(AD/PJ 実施者/成果の担い手・受け手)	42
6.1 アドバイザー制度の改善提案	42
6.2 研究期間や予算への意見・提案	43
6.3 RISTEX への意見・要望	45
付録	
・アンケート票	47

# I .調査概要

## 1.1 調査の内容及び方法

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域の事後評価のために、領域アドバイザー(以下 AD)、プロジェクト(以下 PJ)の実施者、及び成果の担い手・受け手を対象に3種類のアンケート調査を実施した。いずれも WEB アンケート形式で、調査期間は 2019 年 5 月 20 日から 6 月 25 日である。具体的には次のようなものである。

### 1.1.1 領域アドバイザーを対象としたアンケート調査

領域レベルの活動状況や効果的な活動、PJ への影響等を把握するために、AD に対してアンケート調査を実施した。アンケートは AD11 人に対して依頼を行い、7 人からの回答を得た。(回収率 63.6%)

### 1.1.2 プロジェクト実施者を対象としたアンケート調査

PJ レベルでの成果の進展や領域マネジメントの効果等について把握するために、PJ の研究代表者と PJ の主要な実施者に対してアンケート調査を実施した。アンケートは 204 人の対象者に対し、回答者数は 111 人であった。(回収率 54.4%)

### 1.1.3 成果の担い手・受け手を対象としたアンケート調査

PJ 終了後、PJ 成果を普及展開する成果の担い手や成果の恩恵を享受する成果の受け手に対してアンケート調査を実施した。アンケートは 113 人の対象者に対し、回答者数は 45 人であった。(回収率 39.8%)

表 1.アンケートの回収率

立場	対象者数	回答者数	回収率
アドバイザー	11	7	63.6%
PJ 実施者	204	111	54.4%
成果の担い手・受け手	113	45	39.8%
計	328	163	49.7%

表 2.PJ 実施者アンケートの PJ 別回答者数

PJ	回答者数
家中 PJ	19
内田 PJ	6
大塚 PJ	13
大沼 PJ	6
河野 PJ	1
倉阪 PJ	10
後藤 PJ	12
島谷 PJ	10
関 PJ	3
堤 PJ	10
藤原 PJ	9
古川 PJ	3
要藤 PJ	6
渡辺 PJ	3
合計	111

表 3.成果の担い手・受け手アンケートの  
PJ 別×成果の担い手・受け手別回答者数

PJ×担い手・受け手	回答者数	PJ×担い手・受け手	回答者数
家中 PJ×担い手	9	島谷 PJ×担い手	1
家中 PJ×受け手	2	島谷 PJ×受け手	2
家中 PJ×その他	2	島谷 PJ×その他	1
内田 PJ×担い手	1	関 PJ×担い手	0
内田 PJ×受け手	0	関 PJ×受け手	0
内田 PJ×その他	0	関 PJ×その他	0
大塚 PJ×担い手	2	堤 PJ×担い手	2
大塚 PJ×受け手	2	堤 PJ×受け手	3
大塚 PJ×その他	0	堤 PJ×その他	0
大沼 PJ×担い手	5	藤原 PJ×担い手	3
大沼 PJ×受け手	0	藤原 PJ×受け手	1
大沼 PJ×その他	0	藤原 PJ×その他	1
河野 PJ×担い手	0	古川 PJ×担い手	3
河野 PJ×受け手	0	古川 PJ×受け手	2
河野 PJ×その他	0	古川 PJ×その他	0
倉阪 PJ×担い手	0	要藤 PJ×担い手	0
倉阪 PJ×受け手	0	要藤 PJ×受け手	0
倉阪 PJ×その他	0	要藤 PJ×その他	0
後藤 PJ×担い手	1	渡辺 PJ×担い手	0
後藤 PJ×受け手	0	渡辺 PJ×受け手	1
後藤 PJ×その他	1	渡辺 PJ×その他	0
		計	45

「その他」の回答内容(「その他」選択者は受け手用の質問を回答)

家中 PJ...「研究資料の提供者?」、「研究支援」

後藤 PJ...「協力者 応援隊」

島谷 PJ...「施工者」

藤原 PJ...「多世代交流まちプロモーターの一員」

### 1.1.4 評価項目と調査項目の関係

事後評価の評価項目と調査項目の対応関係を示すと、次の通りである。

表 2. 評価項目と調査項目の関係

評価項目 (事後評価)	調査項目		
	アドバイザー向け アンケート	プロジェクト実施者向け アンケート	成果の担い手・受け手 向けアンケート
ストーリー	質問 1-1 外部環境の変化と対応有無 質問 1-1 変化と対応の具体的な内容		
2. プロセス ① 募集選考	※中間評価時に調査済みのため割愛	※中間評価時に調査済みのため割愛	※中間評価時に調査済みのため割愛
② PJ 推進	質問 2-1 PJ とのコミュニケーション程度 質問 2-2 効果的なコミュニケーション 質問 2-3 ハンズオンの具体的な影響	質問 1-1 PJ 実施への領域の影響有無 質問 1-2 影響を受けた領域活動 質問 1-3 PJ 実施への影響や改善提案	
③ 領域活動	質問 3-1 領域成果、目標達成の活動程度 質問 3-2 成果・目標に効果的だった活動 質問 3-3 領域活動の効果や課題等		
3. アウトカム ① 成果創出、 目標達成	質問 4-1 成果創出と目標達成の状況 質問 4-4 創出されたアウトカム 質問 4-5 インパクト創出の見込み	質問 2-1 PJ 目標達成、成果創出の程度 質問 2-2 課題の克服と成否要因	質問 3-1 現時点での課題解決状況 質問 3-2 今後の PJ 成果の有効性程度 質問 3-3 有効または有効ではない理由
② 成果の普及 展開	質問 4-2 アプローチした相手 質問 4-3 ネットワーク形成状況	質問 3-1 想定する担い手・受け手 質問 3-2 担い手・受け手との連携程度 質問 3-3 連携の具体	質問 4-1 成果の普及・展開先 質問 4-2 普及・展開先との連携程度 質問 4-3 普及・展開先

		的な内容 質問 3-4 連携上の課題と対応、成否要因	との連携内容 質問 4-4 連携上の課題や成功要因
③ 意識や行動の変化	質問 5-1 自身や周りの変化	質問 4-1 自身や周りの変化	質問 5 自身や周りの変化
4. 領域の意義	質問 5-2 RISTEX 固有の効果	質問 4-2 RISTEX ならではの効果有無 質問 4-3 RISTEX ならではの効果の内容	
5. RISTEX 方針整合性			質問 1-3 PJ 参加の具体的な経緯 質問 2-1 PJ 実施への関与度合い 質問 2-2 具体的な関与内容 質問 2-3 関与上の困難点
6. 意見・提案	質問 6-1 アドバイザー制度の改善提案 質問 6-2 研究期間や予算への意見・提案 質問 6-3 RISTEX への意見・要望	質問 5 RISTEX、領域への意見・提案	質問 6 RISTEX、領域、PJ への意見・提案

## 1.2 アンケート結果の分析

定量的な集計結果と自由記述における回答の両面から分析し、領域の評価項目に沿ってとりまとめた。自由記述の分析に関しては、どのような意見が多かったかという傾向的な分析を中心に行い、可能な範囲で解釈も付加した。自由記述の一部を括弧書きあるいは列記式で引用したが、趣旨の変わらない範囲で整文や単文化を施したものもある。また、多数の自由記述を網羅できないため、代表的あるいは具体的な一部の紹介にとどめた。

## Ⅱ.調査結果

以下では、事後評価の項目別に、調査分析結果を示す。

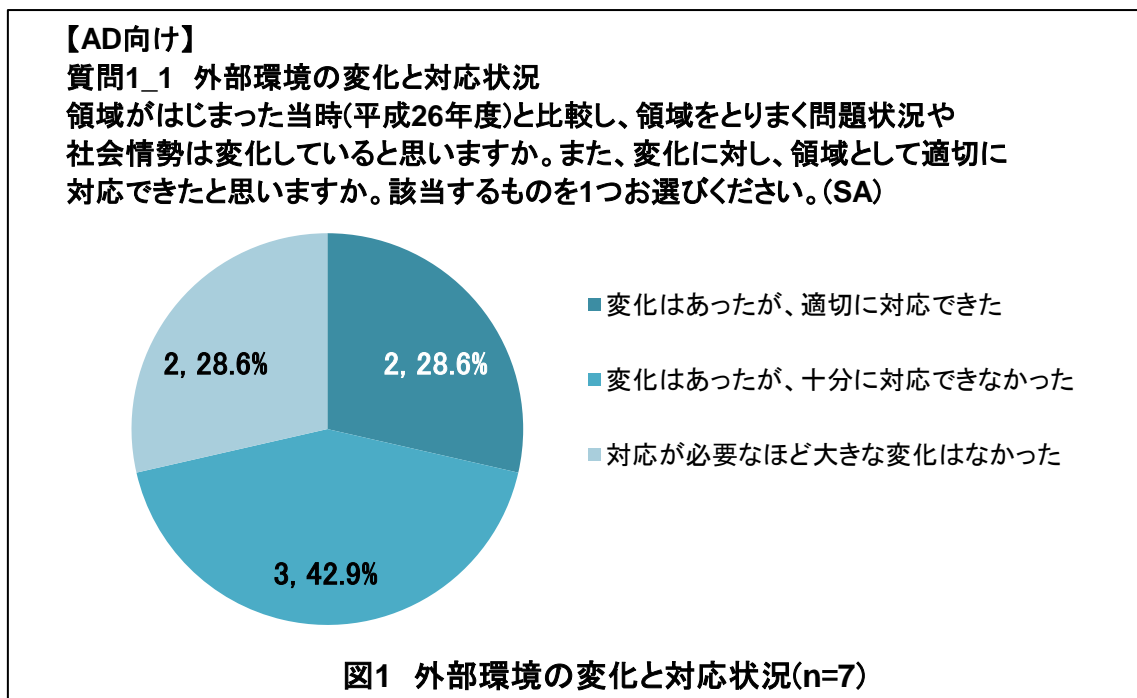
### 1. ストーリー

本評価項目は、「対象とする問題及びその解決に至る筋道」を評価するものであるが、アンケート調査で情報収集する内容ではないことから、調査項目としては、関連する1問のみである。AD向けアンケートにおいて、外部環境の変化と対応状況に関する質問項目を設けた。

#### 1.1 外部環境の変化と対応(ADの回答)

ADに対し、「領域が始まった当時(平成26年度)と比較し、領域をとりまく問題状況や社会情勢は変化していると思うか」について尋ねた(図1)。

回答者7人のうち2人(28.6%)が「変化はあったが、適切に対応できた」、3人(42.9%)が「変化はあったが、十分に対応できなかった」、2人(28.6%)が「対応が必要なほど大きな変化はなかった」と回答しており、見解が分かれた。



自由記述欄をみると、「SDGs やソサエティ5.0に対応できるようにした」との回答がある一方で、「本領域の方向性・内容の検討が始まってからある程度年数が経過していることから、絆や多世代に関する受け止め方にも変化が表れている」と指摘する声も挙がる。時代の変化に対応しきれていないという声としては、「デジタル技術の革新と低価格化への対応ができていないこと」、「政府の政策決定の過程が不透明になったことにより、現場対応から、政策対応への流れを組み立てることが困難である」との指摘がある。



## 2. プロセス

本評価項目は、「領域の運営・活動状況」を評価するものであり、具体的には、「PJの募集・選考活動(ポートフォリオ含む)」、「プロジェクト推進に関わる領域活動(ハンズオンマネジメント)」、「領域としての成果創出のための活動」からなる。PJの募集・選考活動に関しては、中間評価時に調査済みのため、本調査では割愛している。

ここでは、「プロジェクト推進に関わる領域活動」、「領域としての成果創出を目指す活動」の2点からとりまとめを行った。

### 2.1 プロジェクト推進に関わる領域活動

#### 2.1.1 プロジェクトとのコミュニケーション(ADの回答)

ADに対し、「プロジェクトとのコミュニケーションは十分にとれていたと思いますか」と尋ねた(図2)。7人の回答者のうち1人(14.3%)が「コミュニケーションがとれた」、5人(71.4%)が「それなりにコミュニケーションがとれた」、1人(14.3%)が「あまりコミュニケーションがとれなかった」と回答している。TOP2(「コミュニケーションがとれた」、「それなりにコミュニケーションがとれた」と回答した人は6人(85.7%)となっている。

#### 【AD向け】

##### 質問2\_1 プロジェクトとのコミュニケーション程度

(担当プロジェクトを中心にお答えください)RISTEXでは、領域の成果創出と目標達成に向けて、採択後もプロジェクトに対して関与するハンズオンマネジメントを実施していますが、プロジェクトとのコミュニケーションは十分にとれていたと思いますか。該当するものを1つお選びください。(SA)

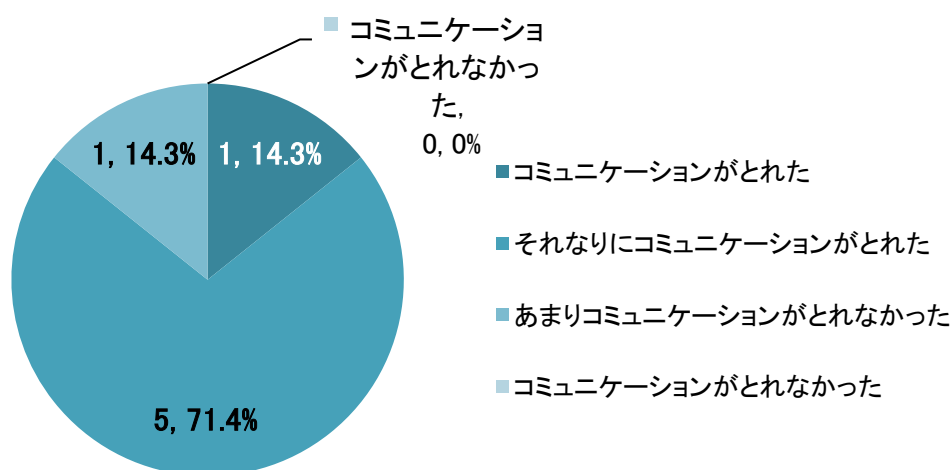


図2 プロジェクトとのコミュニケーション程度(n=7)

また、効果的だったと思うコミュニケーション手段を3つまで尋ねたところ(図3)、「プロジェクトごとの進捗報告会や意見交換会」の6件(85.7%)が最多であった。他、多く挙げられた順では「サイトビジット」が4件(57.1%)、「合宿等の領域全体会議」が3件(42.9%)挙げられた。

【AD向け】

質問2\_2 プロジェクトとの効果的なコミュニケーション手段

(担当プロジェクトを中心にお答えください)プロジェクトの実施段階において、プロジェクトを育むために効果的だと思うコミュニケーション手段や取組を3つ以内でお選びください。「その他」を選択した方は、その内容を具体的にご記入ください。

「プロジェクトを育む」とは、プロジェクトと領域の問題意識およびコンセプトとの親和性の向上や方向性の調整、社会問題の解決に向けた協働や社会実装を重視した研究開発計画の具体化、改善等に取り組むことです。(MA)

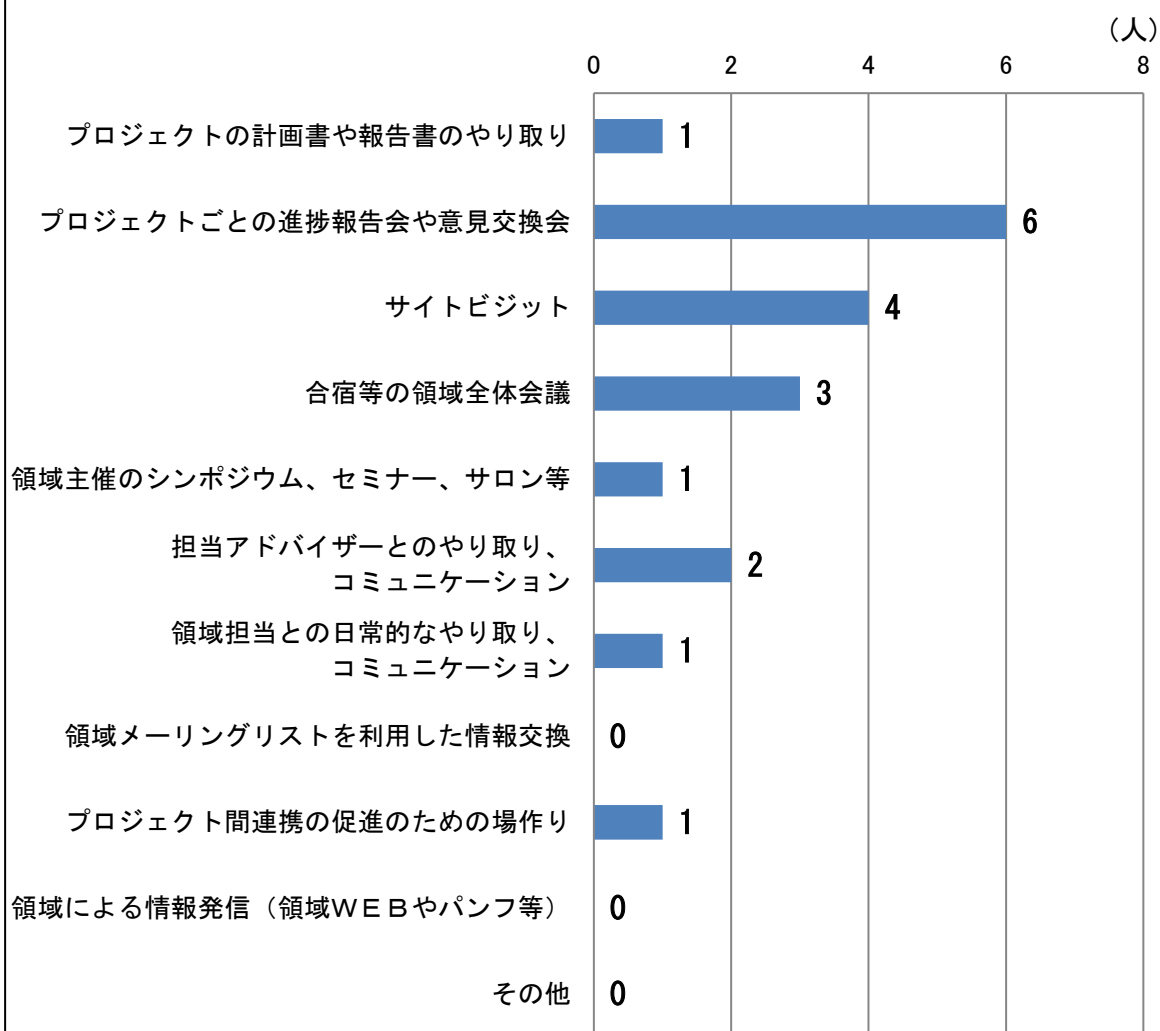


図3 プロジェクトとの効果的なコミュニケーション手段(n=7)

ADに、PJの実施段階における領域活動(PJとのコミュニケーション及びハンズオンマネジメント)によって、具体的にどのような影響や効果がPJにあったのか、自由記述形式で尋ねた。

**【AD向け】**

**質問 2\_3 領域活動によるプロジェクトへの影響**

プロジェクトの実施段階における領域活動(プロジェクトとのコミュニケーション及びハンズオンマネジメント)によって、どのような影響や効果がプロジェクトにあったのか、できるだけ具体的にご記入ください。

(良い影響だけでなく、もし悪い影響もあれば併せてご記入ください)

領域活動によるプロジェクトへの具体的な影響としては、「各プロジェクトの内容を進化させることができた」、「計画の訂正や進捗の遅れの時に相談にのることができた」、「一定の課題意識の共有が可能となった。実施段階での意見交換ができた」といった意見がある。

一方、「各PJによる成果の取りまとめに関して、PJ側への要請が必ずしも十分ではなかったのか?」、「アドバイザーWG内での議論の結果がPJ全体に波及させられなかったことが度々ある」、「(PJリーダーが調整やとりまとめ役だと)アドバイスがほとんど反映されていないものもある」のような、ハンズオンの不足に関わるコメントもみられた。

**2.1.2 領域活動の影響(プロジェクト実施者の回答)**

PJ実施者に対し、「プロジェクトの実施過程で、領域側の活動等から何らかの影響を受けたか」について尋ねた(図4)。111人の回答者のうち、30人(27.0%)が「影響を受けた」、52人(46.8%)が「それなりに影響を受けた」、17人(15.3%)が「あまり影響を受けなかった」、12人(10.8%)が「影響を受けなかった」と回答している。TOP2(「影響を受けた」、「それなりに影響を受けた」と回答した人は82人(73.9%)となっており、影響を受けたPJ実施者の割合が高くなっている。

**【PJ実施者向け】**

**質問1\_1 領域活動の影響程度**

プロジェクトの実施過程で、領域側の活動等から何らかの影響を受けましたか。該当するものを1つお選びください。(SA)

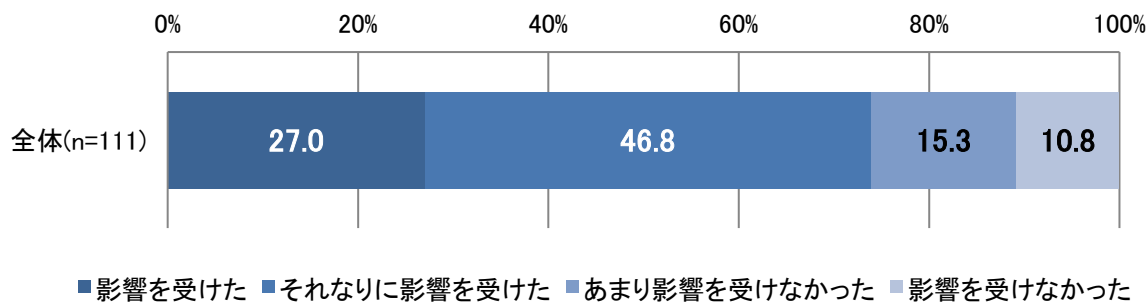
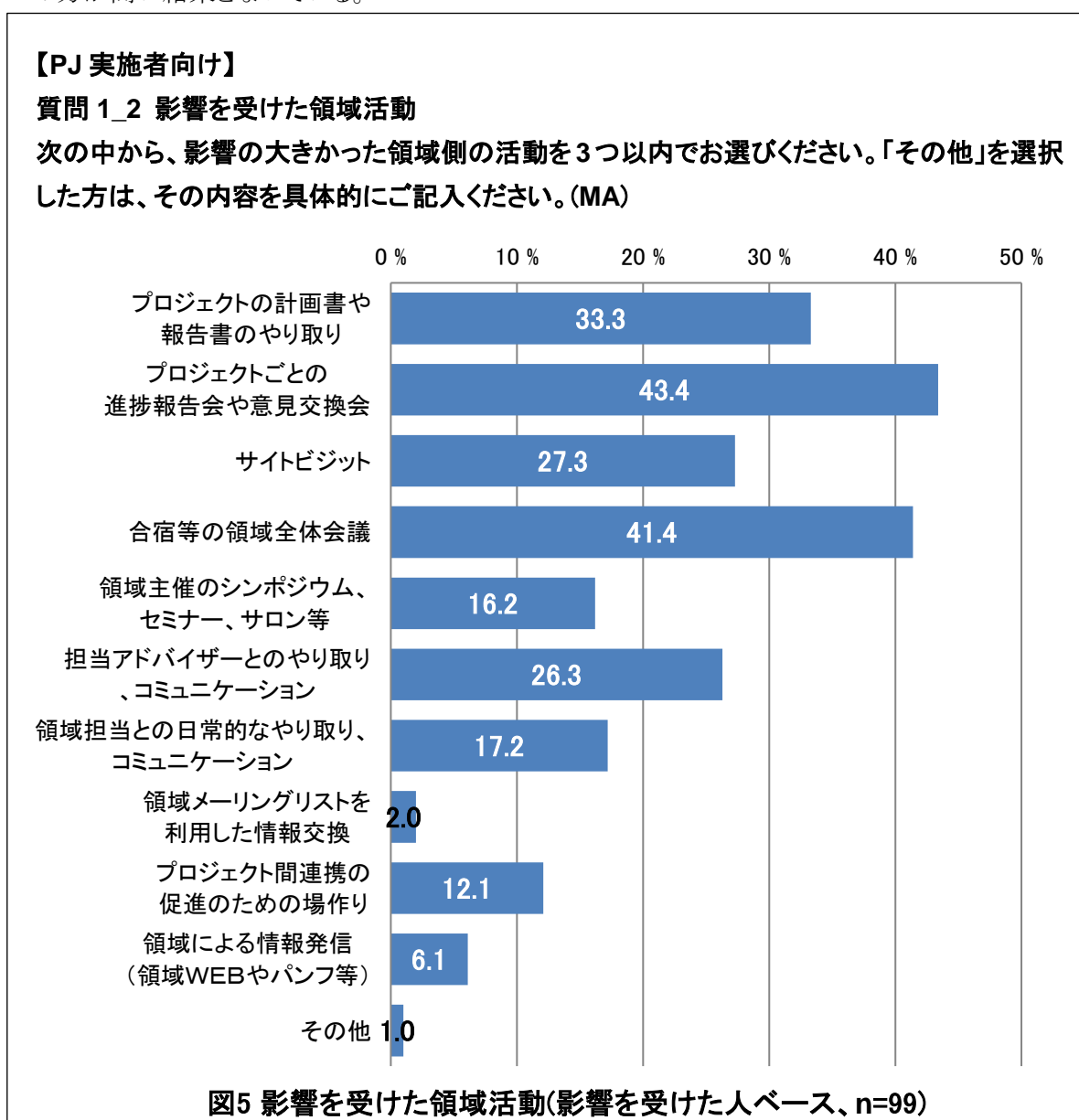


図4 領域活動の影響程度(n=111)

続いて、「影響を受けなかった」と回答した12人以外に、影響の大きかった領域側の活動を最大3つまで選択する形式で尋ねたところ(図5)、「プロジェクトごとの進捗報告会や意見交換会」が43件(43.4%)で最多であった。そのほか多い順では「合宿等の領域全体会議」が41件(41.4%)、「プロジェクトの計画書や報告書のやり取り」が33件(33.3%)と続く。「プロジェクトごとの進捗報告会や意見交換会」が多いのはADとも共通する点である。

一方、「サイトビジット」はADでは比較的多く挙がっているものの、PJ実施者では27件(27.3%)となっており、「プロジェクトの計画書や報告書のやり取り」、「合宿等の領域全体会議」の方が高い結果となっている。



PJ 実施者に、領域活動によって PJ の何がどのように変わったのか、自由記述形式で尋ねた。

#### 【PJ 実施者向け】

##### 質問 1\_3 領域活動の具体的影響や改善提案

プロジェクトの実施過程における領域側の活動によって、プロジェクトの何がどう変わったのか、できるだけ具体的にご記入ください。

(良い影響だけでなく、もし悪い影響もあれば併せてご記入ください)

また、領域側がプロジェクト実施過程に関与する活動に対して、改善提案があればご記入ください。

よい影響として、「PJ の進捗や途中成果を客観視することができ、実施過程の改善に役立てることができた」、「縦割りの関係性から地域のグラデーショナルな、より多様な関係性を意識して 1 つの事業をより多面的な視点で見られるようになった」、「最初は技術開発に偏重していたが、社会活動の重要性も再認識できるようになった」のような視野を広げることができたという意見が多く挙げられる。

研究の質を向上することができたといった趣旨で「専門家や外からの目による指摘によって、研究の内容や質が深まった」、「合宿を開催して、他の PJ と話題提供の機会が設定され、常にアウトカムの意識が働くようになった」、「領域活動は、研究開発の方向性や内容により意味で示唆や緊張感を与えた」といった意見も挙がる。

その他、「ソフト事業だけでなくプロジェクトオフィス等のハードの設定によりノウハウやナレッジの蓄積場所が地域にできつつある」のような研究方法・体制に関する意見や、「PJ 関係者ではない外部視点からの客観的意見や評価をいただいたことで、概念整理や共通理解が進んだ」、「領域合宿やサイトビジットを通して、プロジェクトの計画時に実施内容や語義において曖昧だった部分を指摘・指導いただいた」のような、概念整理や曖昧さの是正に関する記述、「主として領域合宿により、他の PJ の考え方や理念、キーワードなどを吸収することができた。また、それをきっかけに PJ 間でのコラボができた」のような、協働・ネットワーク強化に類する自由意見が挙げられた。

一方、「度々の合宿と経過報告への精神的なプレッシャーは少なくない。SDGs など後から大きな命題や政策的課題が課せられることによって軌道修正を余儀なくされることは課題の一つであると感じる」、「領域側とのコミュニケーションそのものにかかなりの労力・時間がかかった」等、領域への活動報告を負担とする声もみられ、領域の活動によって良い影響があると評価されているものの、領域とのやり取りを負担に感じる声もいくつか見られた。

## 2.2 領域としての成果創出を目指す活動(AD の回答)

AD に、「募集・選考や、個別プロジェクトの研究開発の推進とは別に、「領域として」の成果創出や領域目標の達成に向けた領域活動や工夫は十分に行われたと思うか」について尋ねた(図 6)。7 人の回答者のうち、1 人(14.3%)が「十分に行われた」、5 人(71.4%)が「それなりに行われた」、1 人(14.3%)が「あまり行われなかった」と回答。

### 【AD向け】

#### 質問3\_1 領域活動・工夫の程度

募集・選考や、個別プロジェクトの研究開発の推進とは別に、「領域として」の成果創出や領域目標の達成に向けた領域活動や工夫は十分に行われたと思いますか。

該当するものを1つお選びください。

ここでいう「領域活動や工夫」には、以下のようなものが含まれます。

領域としてのロジックモデルの策定/領域のコンセプトの検討・深化(ストーリー・ワーキンググループ等)/領域としてのリサーチクエストの策定/キーワード集/ハンドブック等の作成/プロジェクトポートフォリオに基づく整理/複数プロジェクトを横断した取組の実施や促進/領域内外のステークホルダーを巻き込む活動/領域主催のシンポジウム/セミナー、サロン等領域による広報・情報発信(領域WEBやパンフ等)(SA)

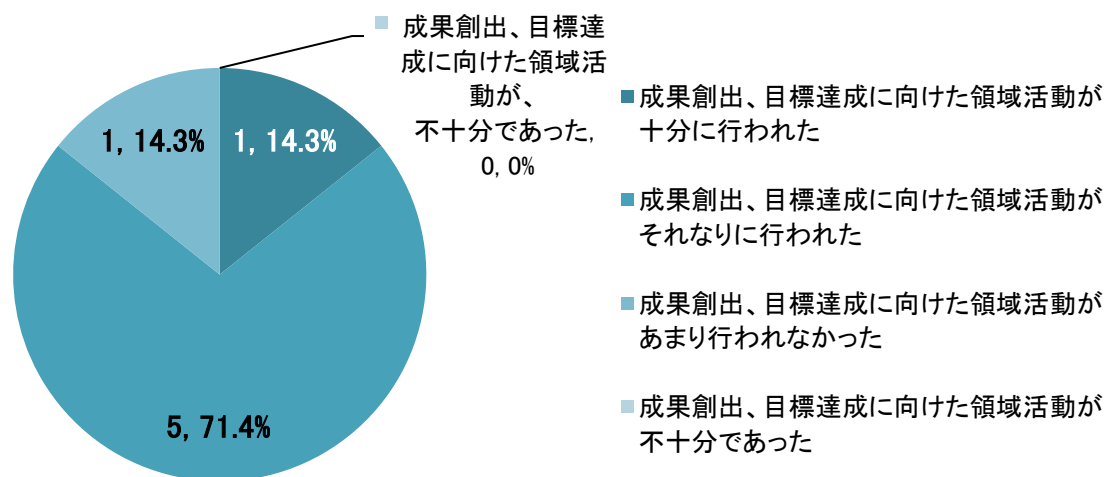
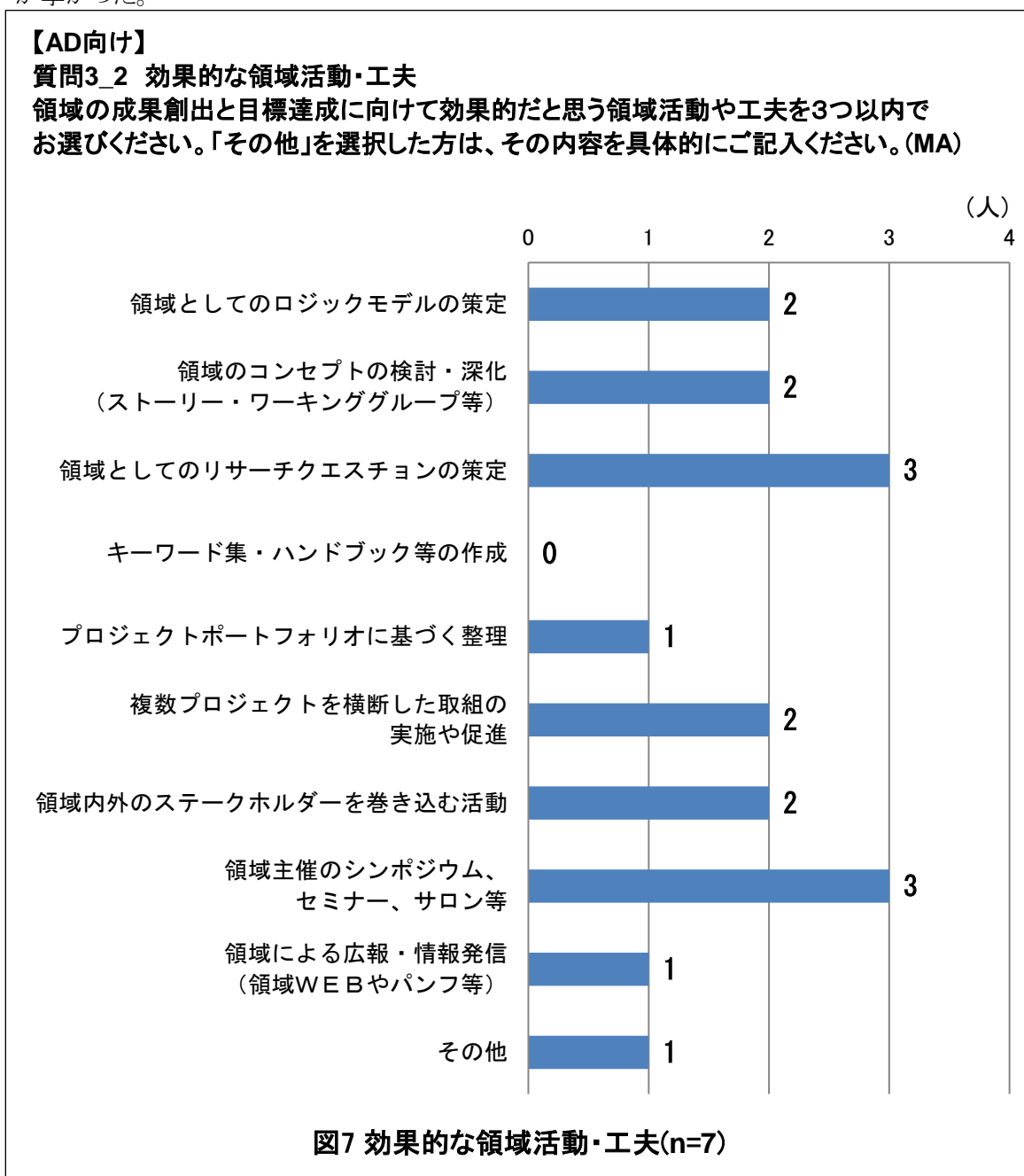


図6 領域活動・工夫の程度(n=7)

続いて、領域の成果創出と目標達成に向けて効果的だと思う領域活動や工夫を最大3つまで選択できる形式で尋ねた(図7)。「領域としてのリサーチクエストの策定」、「領域主催のシンポジウム、セミナー、サロン等」がそれぞれ3件(42.9%)で最も多く、他は「領域としてのロジックモデルの策定」、「領域のコンセプトの検討・深化(ストーリー・ワーキンググループ等)」、「複数プロジェクトを横断した取組の実施や促進」、「領域内外のステークホルダーを巻き込む活動」がそれぞれ2件(28.6%)ずつ挙がる。回答が分散しており、特に効果的な領域活動・工夫をここから判断することは難しく、どの領域活動・工夫も一定の効果があると認識されている様子。なお、「その他」として、「各プロジェクトおよび領域全体のソーシャルインパクトの算定」が挙げられた。



続いて、特に効果的だった領域活動や工夫と、実施した領域活動や工夫において認識した課題点や本来行うべきだと思った領域活動や工夫について、自由記述形式で尋ねた。

**【AD 向け】**

**質問 3\_3 領域活動・工夫の効果や課題**

**"領域として"の成果創出と目標達成に向け、実施して特に効果的であった領域活動や工夫はどのようなものでしたか。**

**どのような点で効果的であったかを含めて具体的にご記入ください。**

**また、実施した領域活動や工夫において認識した課題点や、本来は行うべきであったと思う領域活動や工夫があれば、具体的にご記入ください。**

特に効果的だった領域活動・工夫については「リサーチクエストをお互いに確認すること」、「ストーリーWGを含めた、一部のAD、オフィサーでの『領域の目指すところ』の深堀」、「領域合宿での議論による考え方やアウトカムの共有」、「サイトビジットなどによるPJの進行と課題の明確化」、「領域内外のステークホルダーを巻き込み、当事者を増やす地道な取り組み」が挙げられる。

一方、課題については「『成果』とは何かを明示し、その実現に向かった共創的な取り組みが効果的だと判断されるが、マネジメント(ADを含む)の負担や体制の整備などが必要となる」、「多世代共創の意義や社会実装の重要性は、繰り返し説明、議論されてきたが、浸透したとはいえなかった。解決すべき課題ではなく、自身の関心のある研究を多世代共創に関連付けて、社会実験を行ったものが多い」との意見がある。



### 3. アウトカム

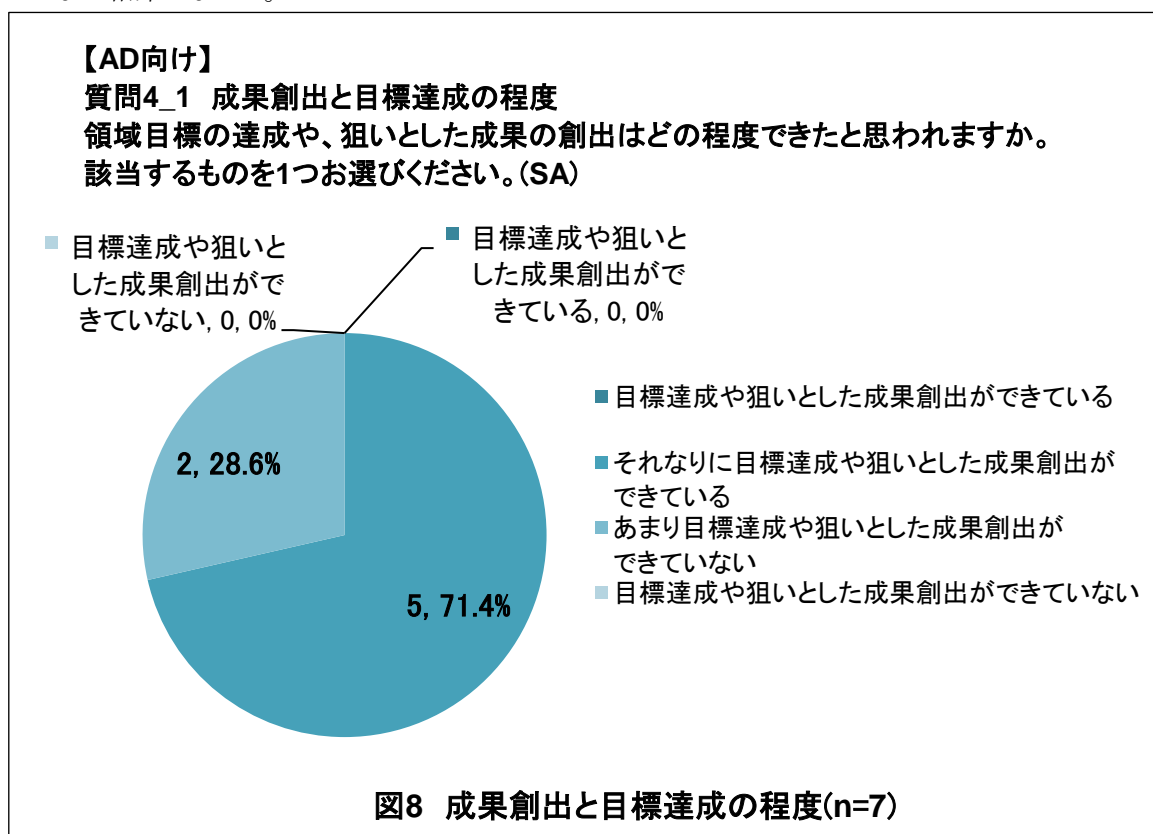
本評価項目は、「研究開発領域の目標の達成状況」や、領域の成果(アウトプット及びアウトカム)の創出状況・見込みを評価するものである。

ここでは「成果創出、目標達成」、「成果の普及展開」の2点からとりまとめを行う。

#### 3.1 成果創出、目標達成

##### 3.1.1 領域アドバイザーの回答

ADに、「領域目標の達成や、狙いとした成果の創出はどの程度できたと思うか」について尋ねた(図8)。7人の回答者のうち、5人(71.4%)が「それなりに目標達成や狙いとした成果創出ができています」、2人(28.6%)が「あまり目標達成や狙いとした成果創出ができていない」と回答。最もポジティブな評価となる「目標達成や狙いとした成果創出ができています」と回答したADはいない結果となった。



続いて、具体的にどのようなアウトカムがあったか自由記述形式で尋ねた。

**【AD 向け】**

**質問 4\_4 具体的なアウトカム**

**領域全体としてどのような"アウトカム"が創出できたと思いますか。**

**できるだけ具体的にお聞かせください。**

創出されたアウトカムとしては、「対象とした事業や地域に対しては Specific に効果的、有用な情報や知見を提供できている」、「多世代共創社会というものがどういう定義であるのかかなり明らかになった」、「具体的な PJ の個々の活動として、ユニークな試みがいくつかあった」といった意見が挙がる。

一方で、「(具体的なアウトカムについては、)まだ途中なのでこれからだと思う」、「アウトプットは結構あるが、アウトカムが社会にあたえるインパクトだとすれば、アウトカムは限定的」とアウトカムはまだ創出されていない、されていたとしても限定的だとの意見もある。

領域のアウトカムが今後、具体的にどのようなインパクトをもたらすと期待されるか、または将来さらなるインパクトをもたらすために、今後期待される取組があればどのような取り組みが望まれるかについても自由記述形式で尋ねた。

**【AD 向け】**

**質問 4\_5 インパクト創出の見込み**

**領域のアウトカムが今後、具体的にどのようなインパクトをもたらすことが期待されますか。**

**これまでの領域活動等を踏まえて、インパクトの展望をお聞かせください。**

**また、将来更なるインパクトをもたらすために、今後に期待される取組があれば、誰がどのような取組をすることが望まれるかご記入ください。**

「社会実装と言っても、『構造的実装』というよりは、プロジェクトとしての一部の成立が成果となった」との意見があったが、具体的なインパクトに関する記述は見られなかった。

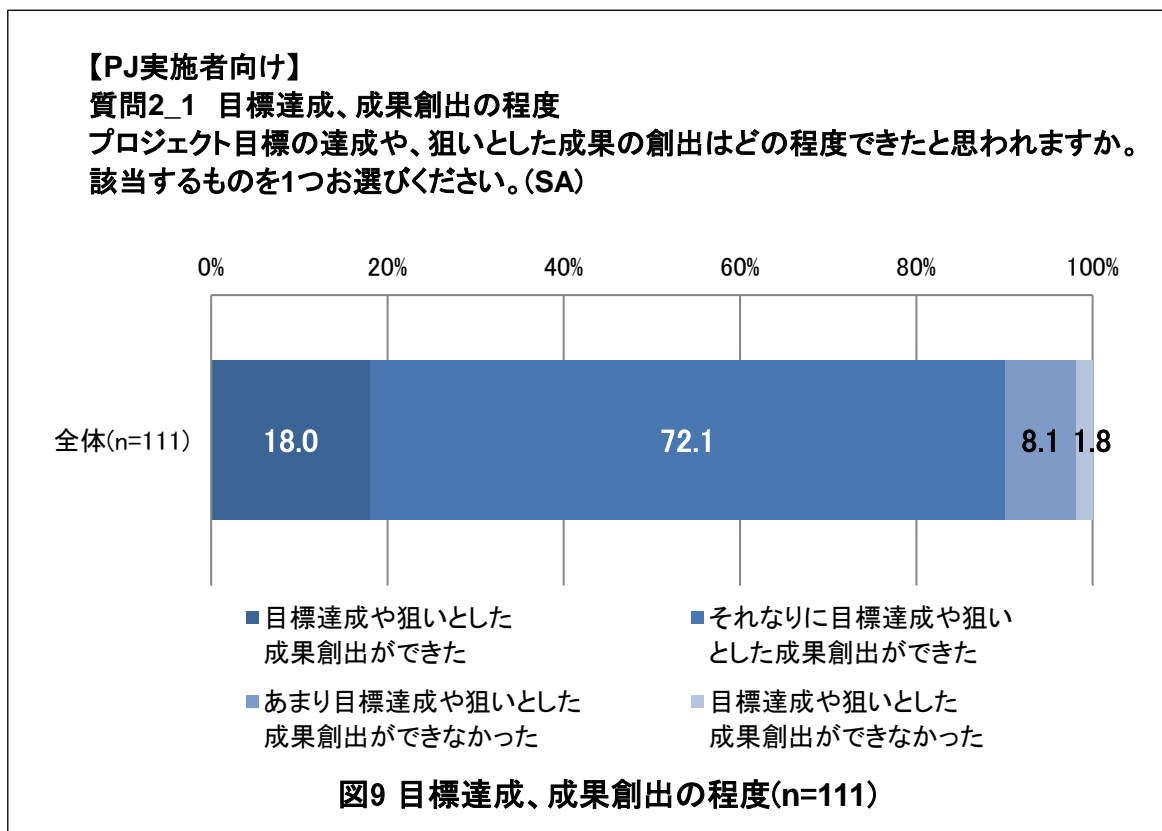
今後、世の中に広く期待する点として、「個人の考え方や社会との関係等に係る研究の成果が社会科学に活用されることを期待」、「地域の幸福、ソーシャルキャピタル、哲学対話が社会科学と連携することを期待」、「文理融合による領域横断的な研究」といった意見がある。

今後に期待される取組としては、「他に移転、実装しやすいような定量性、システム性、柔軟性等を考慮した方法論としての取りまとめが必要」、「現状では社会実験で終わるものがほとんどではないか。受け手を探す前に、補助金なしでも継続する仕組みやビジネスの形にする必要がある」といった意見がみられた。

### 3.1.2 プロジェクト実施者の回答

PJ実施者に、「プロジェクト目標の達成や、狙いとした成果の創出はどの程度できたと思うか」について尋ねた(図9)。

111人の回答者のうち、20人(18.0%)が「目標達成や狙いとした成果創出ができた」、80人(72.1%)が「それなりに目標達成や狙いとした成果創出ができた」、9人(8.1%)が「あまり目標達成や狙いとした成果創出ができなかった」、2人(1.8%)が「目標達成や狙いとした成果創出ができなかった」と回答。TOP2(「目標達成や狙いとした成果創出ができた」、「それなりに目標達成や狙いとした成果創出ができた」)は100人(90.1%)であり、成果創出をできたと感じている人の割合は高い。



続いて、PJ目標の達成や成果を創出する上で、どのような困難や課題があったか、またその克服方法について、自由記述形式で尋ねた。

#### **【PJ実施者向け】**

##### **質問 2\_2 課題の克服と成否要因**

**プロジェクト目標の達成や成果を創出する上で、どのような困難や課題がありましたか。それをどのように克服(または対応)したのか、成功や失敗の要因も含めて具体的にご記入ください。**

市民や自治体などの現地の人々に協力してもらうことが困難であったり、時間がかかったという声が課題として多く挙がる。この克服方法としては「勉強会や協働の活動を通して」、「培ってきた人脈の広さと厚さでカバーできた」、「柔軟にスケジュールリングや内容の緩やかな変更をすることで、参加者の多くが落ち着いて企画を実施できるようにした」、「対象地の生活・文化の理解に現地事務所の開設が役だった」、「行政の担当者と密な連携をした」等の工夫があげられている。

地域の人々との関係構築に苦勞する声は多いが、同時に関係構築が成功要因と感じられており、「広がりを作るのには苦勞するが、徐々に徐々に広がっていくのは楽しい。多世代共創というアプローチは素晴らしい」など、工夫により関係が密になれば、PJの推進も容易になったとの意見がある。

一方、「3年間で完結が困難」、「3年で、持続可能なコミュニティの形成はハードルが高かった」との期間に関する意見や、「PJの効果を一過性のものとせず、PJ終了後も如何に継続させるかに課題を感じる」との意見もあった。その他、自治体の対応や人事異動も課題として挙げたが、これらに対する有効な克服策を示唆する意見は見られなかった。

### **3.1.3 成果の担い手・受け手の回答**

成果の担い手・受け手に現時点において、PJの研究成果は対象とした問題の状況や問題への対応方針に何らかの変化や効果を与えたかどうかについて尋ねた。

#### **【成果の担い手・受け手向け】**

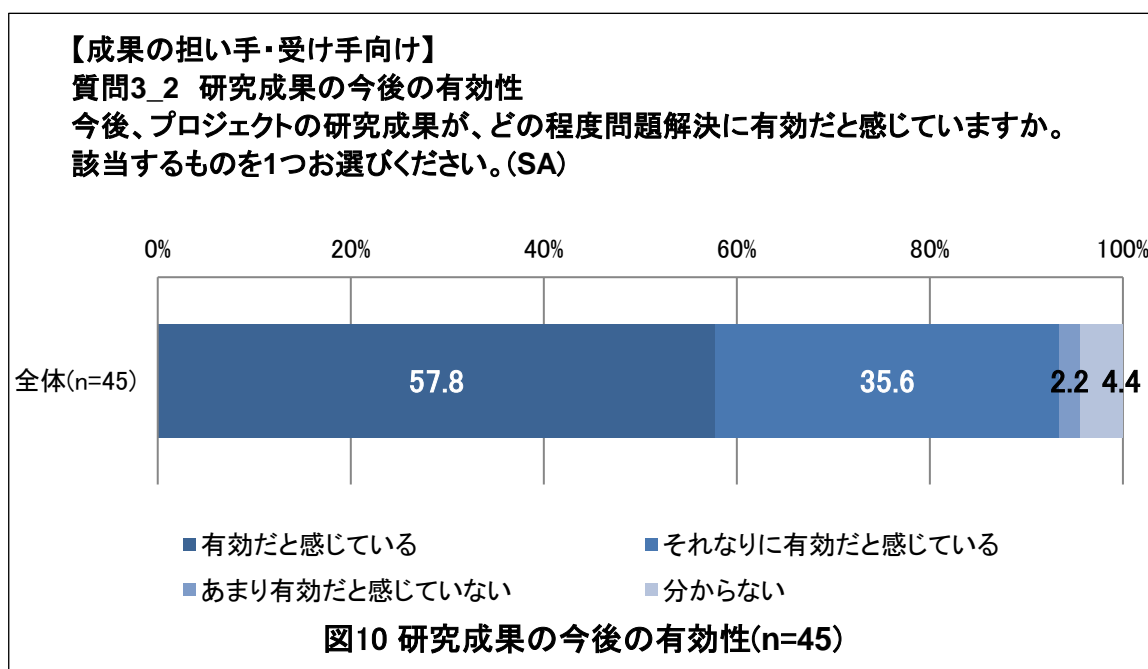
##### **質問 3\_1 研究成果による現時点での課題解決状況**

**現時点において、プロジェクトの研究成果は、対象とした問題の状況や問題への対応方針に何らかの変化や効果を与えましたか。具体的にご記入ください。**

「当事者が抱えていた問題意識を当事者間で共有し、解決策を自発的に考えられるようになってつつある」、「人とつながりが濃くなった。外部からの情報や刺激によって地域が盛り上がっている」等、地域の人と人とのつながりが強くなっているという意見がある。また、「暮らしを支える社会インフラとしての地元の森林を様々な観点から見つめなおす若手が増えつつある」、「PJで移住者や若手行政職員と年配の地域住民との交流により、お互いの理解が深まり、その後

の交流の機会となった」等、世代を超えた関わりが増えてきているとの意見もみられる。このように住民の意識や活動の変化を挙げるものが多かったが、一方、現時点では成果や変化がないという意見も数件見られた。

続いて、「今後、PJの研究成果が、どの程度問題解決に有効だと感じているか」について尋ねた(図10)。45人の回答者のうち、26人(57.8%)が「有効だと感じている」、16人(35.6%)が「それなりに有効だと感じている」、1人(2.2%)が「あまり有効だと感じていない」、2人(4.4%)が「分からない」と回答。TOP2(「有効だと感じている」、「それなりに有効だと感じている」と回答した人は42人(93.4%)であり、ほとんどの人が成果の有効性を感じている。



次に、PJの研究成果が問題解決に有効もしくは有効ではないと感じている理由について尋ねた。

**【成果の担い手・受け手向け】**  
**質問3\_3 研究成果が有効または有効でない理由**  
 前問でそのように回答した理由は何ですか。(特に、「あまり有効だと感じていない」と回答した方は、その理由や課題などがわかるように具体的にご記入ください。)

「有効だと感じている」と回答した理由として、「実物ができたので、実際に見学することができ、とても効果があると思う」、「具体的な実装者の姿が見えてきている」のように、成果や効果を感じているとみられる意見が挙げられている。

他にも、「誰かにやらされているのではなく、区民から主体的な言動、行動がみられた」、「一般市民の意識を変えるチャンスがあると思う」、「地域の方々が『問題』と考えて活動をされてい

る現状ではないが、活動を続けることの『効果』は理解してくださっている状態』のような、一般の市民からの理解や関心が高まっていることを実感している意見が多く挙げられる。

一方、「それなりに有効だと感じている」とする回答者の意見からは、「有効ではあると思うが、エンドユーザーのところにもどのようにして届けるのか、という物流上の課題が大きい」、「地域活動にしていくには、10年、20年かかると思うので、キッカケにはなっていると感じる」のように、有効性が見える前段階であることや有効性を発揮するにはまだ不十分、との意見がある。「あまり有効でない」とする回答者からは「事業化までまだ期間を要する案件であるため、判断できない」との意見が挙がる。

## 3.2 成果の普及展開

### 3.2.1 領域アドバイザーの回答

ADに、領域成果の担い手・受け手として領域がアプローチした対象にはどのような人や組織がいるか尋ねた。

#### 【AD向け】

##### 質問 4\_2 成果の担い手・受け手

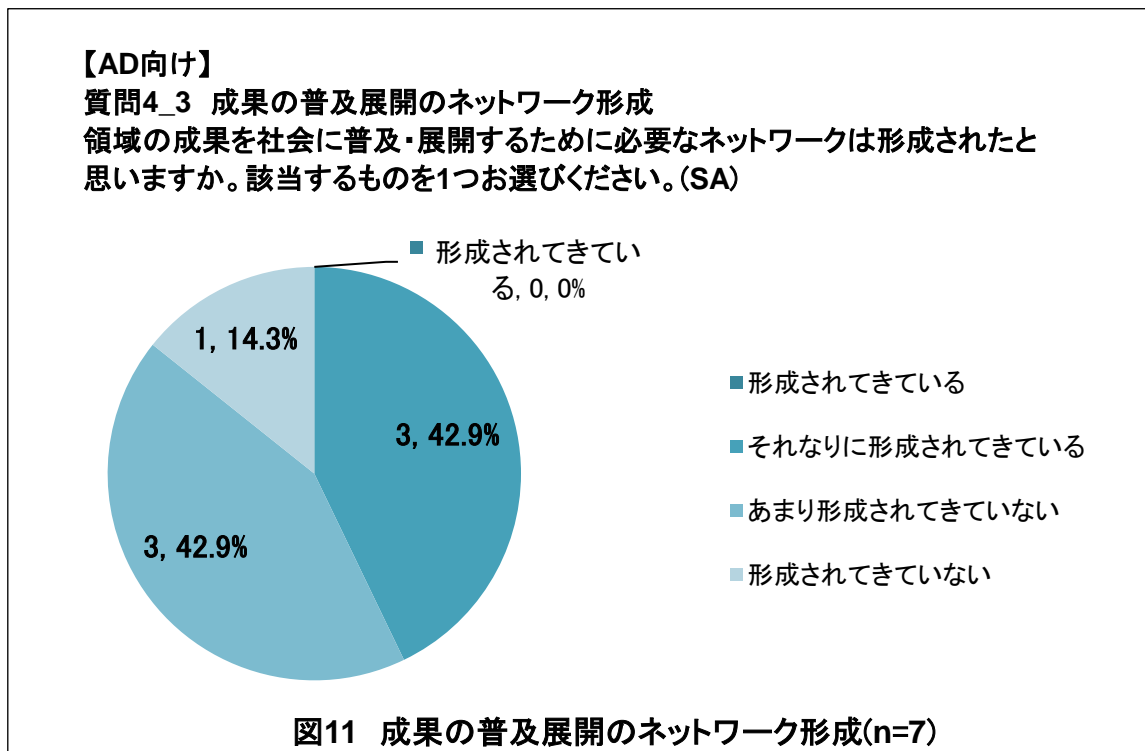
領域成果の担い手・受け手として領域がアプローチした対象にはどのような人や組織がいますか。特に領域として対話や連携などに注力した方々がいれば、その理由や方法も合わせてご記入ください。

ADの回答からは下記のとおりである。(主な回答)

- 自治体関係者
- 市民団体関係者
- 大学関係者
- 企業関係者
- PJ担当者

1件、「この部分はほとんどできていない。研究成果がでてから担い手を探すのでは遅すぎる。研究開始時、または1年以内に担い手になりえる人が参加するチームメイキングが必要ではないか」との意見もある。

AD に、「領域の成果を社会に普及・展開するために必要なネットワークは形成されたと思うか」について尋ねた(図 11)。7 人の回答者のうち、3 人(42.9%)が「それなりに形成されてきている」、3 人(42.9%)が「あまり形成されてきていない」、1 人(14.3%)が「形成されてきていない」と回答。「あまり」も含め、「形成されてきていない」という回答の方が多く、領域の成果の普及・展開のためのネットワークがまだ十分に形成されていない可能性がある。



### 3.2.2 プロジェクト実施者の回答

PJ 実施者に、成果の普及・展開に向けて、働きかけや情報発信を行うべき成果の担い手や受益者としてどのような人々を想定したか尋ねた。

**【PJ実施者向け】**

**質問 3\_1 成果の担い手・受け手**

成果の普及・展開に向けて、働きかけや情報発信を行うべき成果の担い手(成果を普及展開する人・組織)や、受益者(政府・自治体、各種団体等の利害関係者、市民等)として、どのような人々を想定しましたか。具体的にご記入ください。

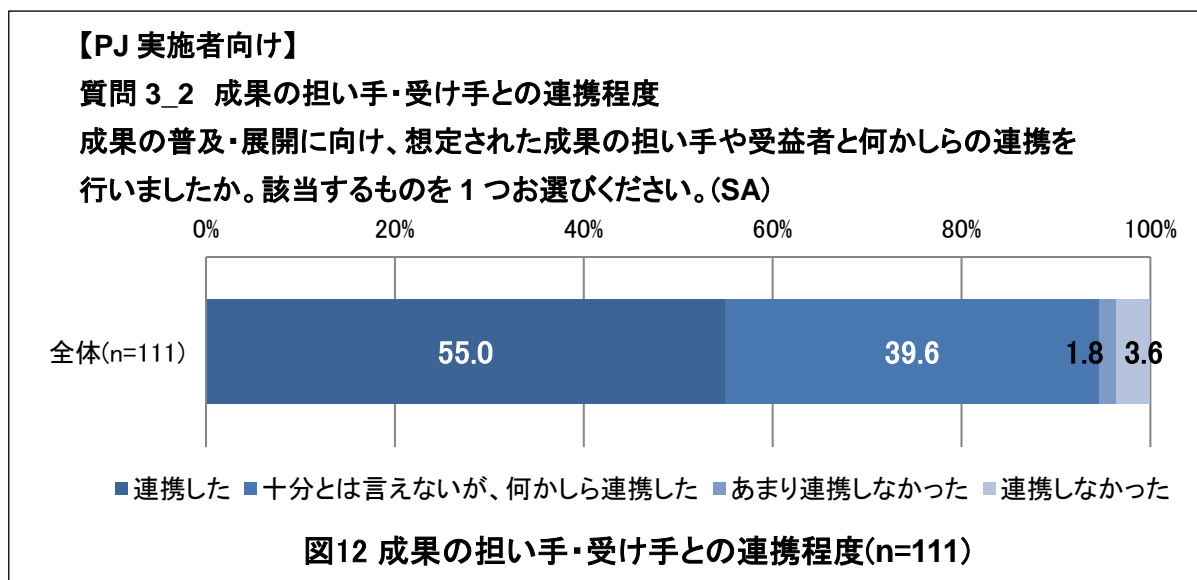
PJ 実施者からの回答は下記のとおりである。(主な回答)

- 自治体、自治体職員、自治体関係者
- 地域住民
- まちづくり団体
- 多世代共創の担い手となる市民

- 行政職員
- NPO 職員

ADの回答には公的な機関が多かったが、PJ実施者では一般市民・住民などの回答が増えた。また、PJ固有の回答として、漁業関係、林業関係、まちづくり会社、個別の自治体名など、より具体的な相手が挙がる傾向があった。

続いて、「成果の普及・展開に向け、想定された成果の担い手や受益者と何かしらの連携を行ったか」について尋ねた(図12)。111人の回答者のうち、61人(55.0%)が「連携した」、44人(39.6%)が「十分とは言えないが、何かしら連携した」、2人(1.8%)が「あまり連携しなかった」、4人(3.6%)が「連携しなかった」と回答。TOP2(「連携した」、「十分とは言えないが、何かしら連携した」)の回答者は105人(94.6%)であり、ほとんどのPJ実施者が成果の担い手・受け手と連携したと回答。



続いて、連携内容について尋ねた。

**【PJ実施者向け】**  
**質問3\_3 連携の内容**  
**成果の担い手や受益者と連携した内容を具体的にご記入ください。**

実装活動に近い連携が一部回答よりみられる。具体的には、「まちづくり会社を設立し、PJを遂行している」、「協働のあまみず社会実装、勉強会・学習会の開催」、「協議体と、住民ボランティアサロンを開設・養成し、研究終了後も、社会実装している」のような活動が挙げられる。

PJに参画させていると思われる連携としては、「成果報告の公開、流通網の開拓、流通システムの開発・実証、各種普及活動、シナリオ作成(予定)」、「PJメンバーに成果の担い手であ



る企業へ参画頂いた。対象地域で具体的なイベント等を実施する場合は、自治体の HP にて PR 頂いた。その結果、地元報道機関からの問い合わせがあった」等の内容が挙げられる。

他にも「イベント(マッピングパーティ)、実証実験へ参加して頂いた」、「シンポジウム&マルシェの実施、地域資源探索ツールの開発・実装、地技カタログ&マップの開発・実装」のようなイベントや会議等への巻き込み、情報提供や意識交換レベルの連携が挙げられる。

実装活動に近い連携もあることから、PJ レベルでは成果の担い手・受け手との連携はかなり進んでいるとみられる。

次に、連携するうえでの課題とそれに対する対応、成否要因について尋ねた。

#### **【PJ 実施者向け】**

##### **質問 3\_4 連携の課題と対応、成否要因**

**成果の担い手や受益者と連携する上で、どのような課題や困難がありましたか。それをどのように克服(または対応)したのか、成功や失敗の要因も含めて具体的にご記入ください。**

連携を進める中で、成果の担い手・受け手との問題意識に乖離があることや理解をえられないことが障壁となるという意見が多く挙げられる。その障壁をなくす方策としては時間をかけて丁寧に説明するといった類の対応策が多かったが、具体的な解決策としては、「体験型ワークショップを設計して体験して習得するようにした」、「事前にコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが重要」、「住民は警戒心が強かったが、子供たちを巻き込むことで大人たちが参加してくれた」などの工夫がみられる。成果の担い手や受け手には、まず理解を得て、自分ゴトとして主体的に動いてもらう必要性を感じている PJ 実施者が多い。中には、「成果の担い手を通じて受益者への活動の理解が得られた側面があり、担い手の有無の重要性が実感された」との声もある。

他にも、「ビジョン策定は、役場の体制が不十分だったことなどもあり、進捗は芳しくないが、地元の若手人材を絡めた体制の立て直しを図った」、「各自治組織の認識や価値観の不一致、代謝の悪さ。担い手は多いが、組織間の関係構築が進んでいない状況であった。今後を担う若年層や新規に事業を考える者への賛同と支援、仲立ちを行なった」のような、自治体などの行政組織と関わるうえでの課題も比較的多くみられた。

### 3.2.3 成果の担い手の回答

成果の担い手に研究成果の普及・展開先として、どのような人々や組織と連携しているか尋ねた。

#### 【成果の担い手向け】

##### 質問 4\_1 研究成果の普及・展開先

研究成果の普及・展開先として、どのような人々や組織と連携されていますか。今後の対象も含めて、具体的にご記入ください。(例えば、政府・自治体、各種団体等の利害関係者、市民等)

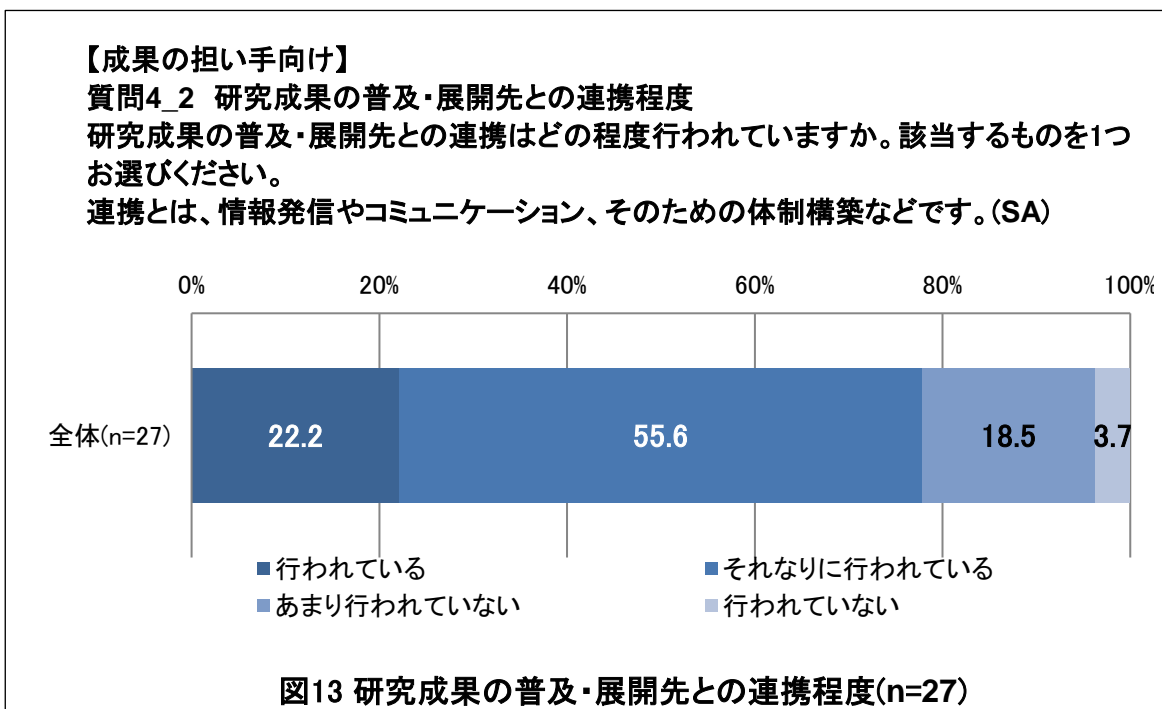
連携とは、情報発信やコミュニケーション、そのための体制構築などです。

成果の担い手からの回答は下記のとおりである。(主な回答)

自治体が多いのは、AD、PJ 実施者と同様だが、小中学校、保健所なども挙げた。

- 自治体
- 企業
- 行政
- 大学
- 他の地域
- まちづくり団体
- 小学校や中学校
- 保健所
- 消防団
- 市民
- NPO 法人

続いて、成果の担い手を対象に「研究成果の普及・展開先との連携はどの程度行われているか」について尋ねた(図 13)。27 人の回答者のうち、6 人(22.2%)が「行われている」、15 人(55.6%)が「それなりに行われている」、5 人(18.5%)が「あまり行われていない」、1 人(3.7%)が「行われていない」と回答。TOP2(「行われている」、「それなりに行われている」と回答した人は 21 人(77.8%)であり、多くの担い手が研究成果の普及・展開先との連携をしていると回答。



続いて、普及・展開先との連携内容について尋ねた。

**【成果の担い手向け】**  
**質問 4\_3 研究成果の普及・展開先との連携内容**  
**研究成果を普及・展開する相手との間で、具体的にどのような連携が行われていますか。**  
**連携とは、情報発信やコミュニケーション、そのための体制構築などです。**

情報提供、意見交換をするといった意識レベルの連携もあるが、実際に活動を伴う連携や、実装に近い活動も見受けられる。

実装に近い活動としては、「自治体に担当部署を置き、実装地域、企業との連絡調整を行っている」、「県庁主体のコミュニティナース育成事業、県地域包括ケア推進室、保健所主体の退院調整ルールづくり支援事業、医療企業団(総合医療センター)主体のへき地支援センターへの看護師(へき地看護師、コミュニティナース等)の実装など」、「定期的なサロン開催や視察、協議体の設立により横断的な人材ネットワークと地域の見守りを推進している(質問 4\_1 より)」がある。

実際に活動を伴う連携としては、「交流会、フォーラム等での研究成果の共有」、「頻度の高いコミュニケーション、勉強会など」、「意識喚起のためのワークショップ」などがある。他には、情報提供や意見交換をするという意識レベルに近い連携がおこなわれているとの意見があった。

続いて、研究成果を普及・展開する相手との連携について、課題や困難な点があったか、また連携の成功要因について尋ねた。

#### **【成果の担い手向け】**

##### **質問 4\_4 研究成果の普及・展開上の課題や成功要因**

**研究成果を普及・展開する相手との連携について、課題や困難な点があればお聞かせ下さい。また、連携が良好に行われたのであれば、その成功要因はどのようなことだと思われ  
ますか。できるだけ具体的にご記入下さい。**

連携上の課題としては、「人事異動によって連携体制を再構築しなければならない」、「(病院と地域で重視点が違うため)連携がとりにくい」、「集まるタイミングがあわない」、「(PJが終わり、)支援がなくなってからのリーダー人材と活動資金の確保」、「今後の普及方法等の展開策」、「活動に賛同し協力を頂けるような協力体制までたどり着けていない」等、様々な意見が挙げられるが、分野横断的であるがゆえに、PJ への理解を深めてもらうことへの難しさを挙げる声が比較的多くみられる。

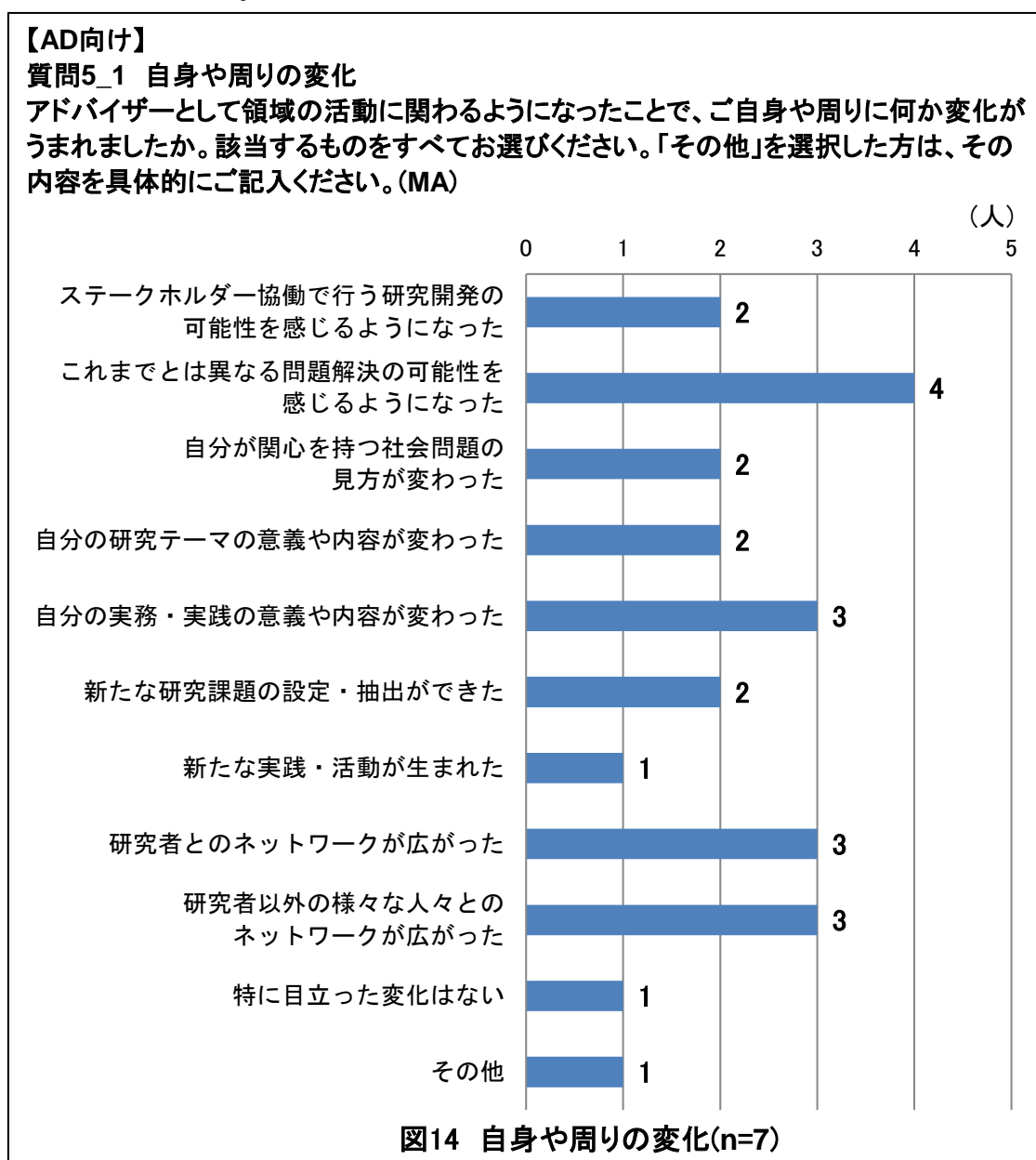
成功要因としては、普及・展開先との関係が密になっていることを要因とする回答が見られた。「連携が良好であった理由は、お互いの信頼関係があったこと」、「論理的であるかや正論かどうかではなく、お互いの信頼関係がそもそも大切であるので信頼関係の構築にまずは努めている」、「PJ メンバーの協力により、概ね連携は良好に行われている」、「シェアオフィスという場や毎月開催している会合があるために、そこでコミュニケーションを図りやすい」などの工夫や意見が挙がる。

### 3.3 意識や行動の変化

AD、PJ実施者、成果の担い手・受け手に対して、領域やPJの活動に関与したことで、自分や周りに変化があったかどうかを尋ねた(図14,15,16)。

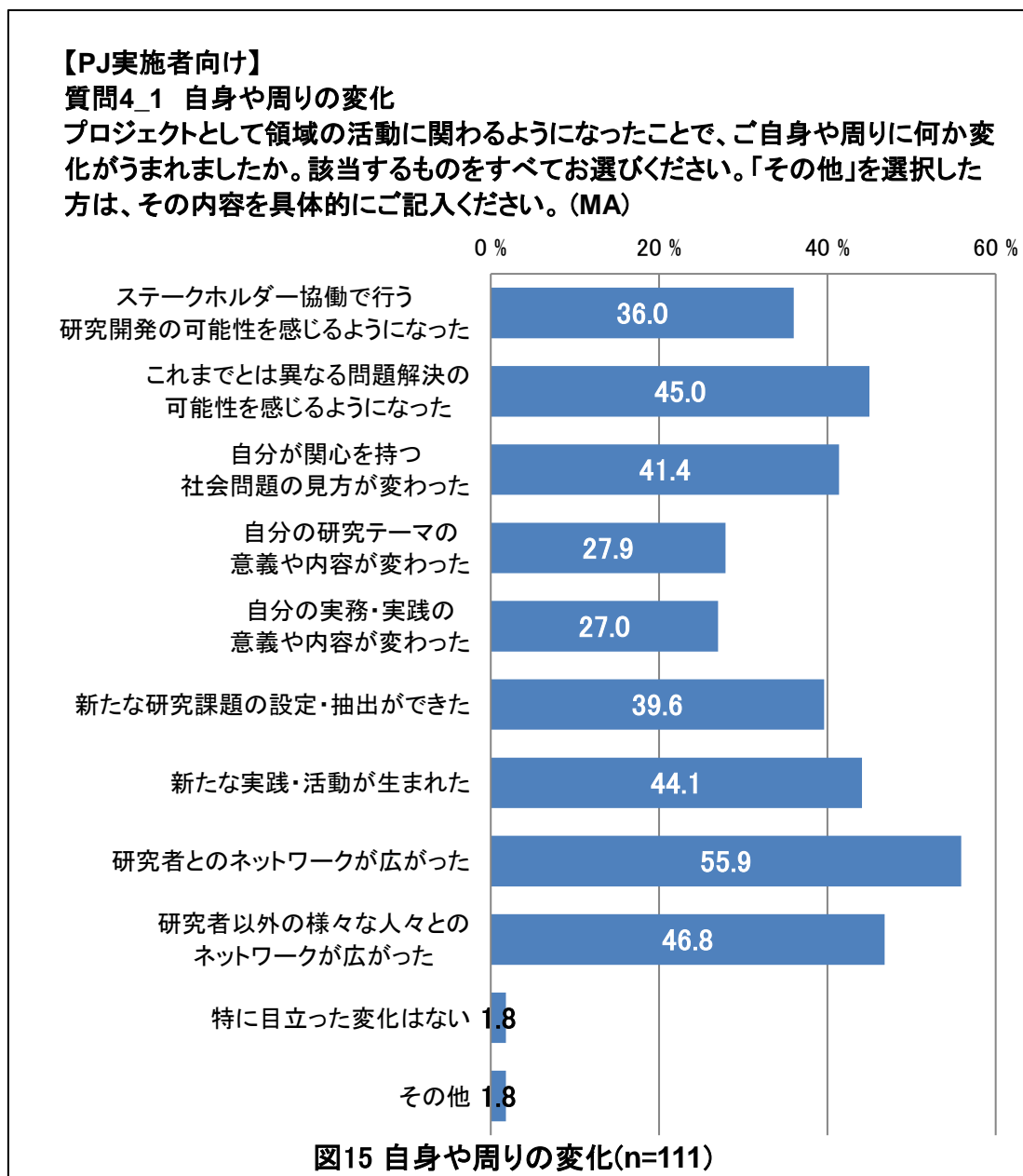
#### 3.3.1 ADの回答

ADの回答(図14)では、「これまでとは異なる問題解決の可能性を感じるようになった」が7人中4人(57.1%)に回答されている。どの回答もまんべんなく回答されており、様々な変化が感じとられているといえる。



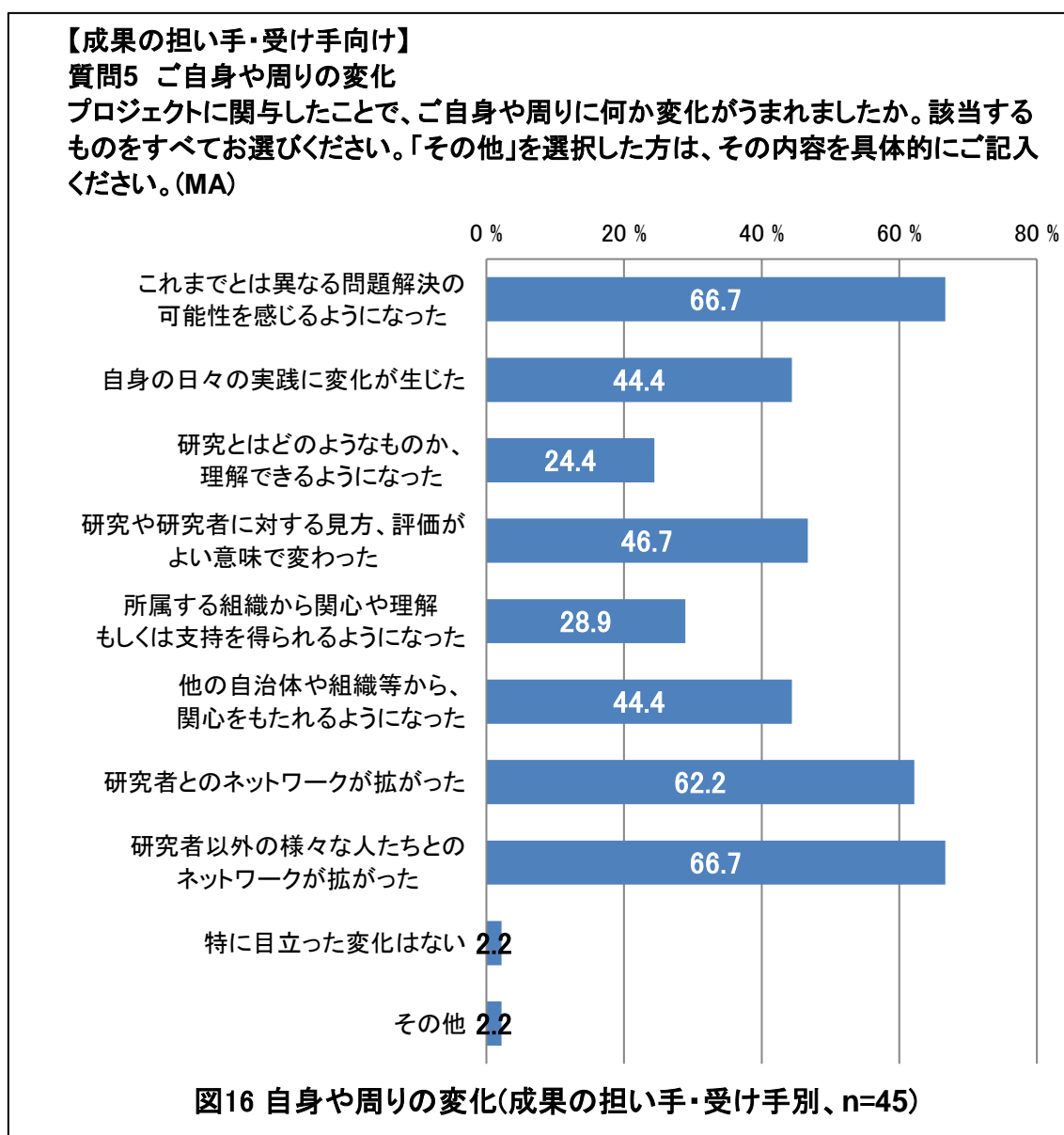
### 3.3.2 PJ 実施者の回答

PJ 実施者からの回答(図 15)では「研究者とのネットワークが広がった」が 55.9%で最も多く、次点では「研究者以外の様々な人々とのネットワークが広がった」が 46.8%、「これまでとは異なる問題解決の可能性を感じるようになった」が 45.0%あげられている。視野、ネットワークのどちらも広がっていることを実感している様子。ほとんどの PJ 実施者が何かしらの変化を実感している。



### 3.3.3 成果の担い手・受け手の回答

成果の担い手・受け手からの回答(図 16)では「これまでとは異なる問題解決の可能性を感じるようになった」、「研究者以外の様々な人たちとのネットワークが広がった」が 66.7%で最も多く挙げられている。「研究者とのネットワークが広がった」も 62.2%挙げられている。これは PJ 実施者の回答と同じ傾向である。



#### 4. 領域の意義(RISTEX ならではの効果)

ここでは、今回の調査結果の全体から、領域の意義や RISTEX ならではの効果について、取り纏める。全体を通しての結果としては、領域評価フォーマットにおいて例示されているような効果が各所で確認された。以下、回答者の属性毎に分析結果を記載する。

##### 4.1 AD の回答、自由意見から

AD に、RISTEX ならではの効果を自由記述形式で尋ねた。

###### 【AD 向け】

###### 質問 5\_2 RISTEX ならではの効果

**RISTEX の領域以外のプログラムや資金制度では得られないような「RISTEX ならではの固有の効果」を、プロジェクト実施者をはじめ領域のステークホルダーにもたらしていると思いますか。具体的な効果についてご記入ください。**

「分野横断、全国各地、社会技術という考え方、社会実装への強い意識」、「異分野の多数のプロジェクトが、合宿などを通じて交流できたことの意義は大きいと思う」のように様々な分野の関係者と協働できることが RISTEX 固有の効果として挙げられている。

他、「公的な資金の活用と AD からのアドバイスを得ながら、比較的自由(自主的)な PJ の運営ができるので、多様な要因を視野に入れた取り組みが実現できたものと判断される」、「プロジェクトの進捗、成果創出に、スタッフやアドバイザーが深くコミットすることで、成果創出の質をあげている点」のように AD が PJ に関与することで研究の質が上がることも効果として挙げられている。

AD に対するその他の設問から、「RISTEX ならではの効果」に関連すると思われる自由意見を以下に記載する。領域評価フォーマットにおいて例示されている分類に沿って示す。

###### (研究開発の有無や実施速度への影響)

- PJ を進める際に、一定の課題意識の共有が可能となった。実施段階での意見交換ができた
- 計画の訂正や進捗の遅れのときに相談に乗ることができた

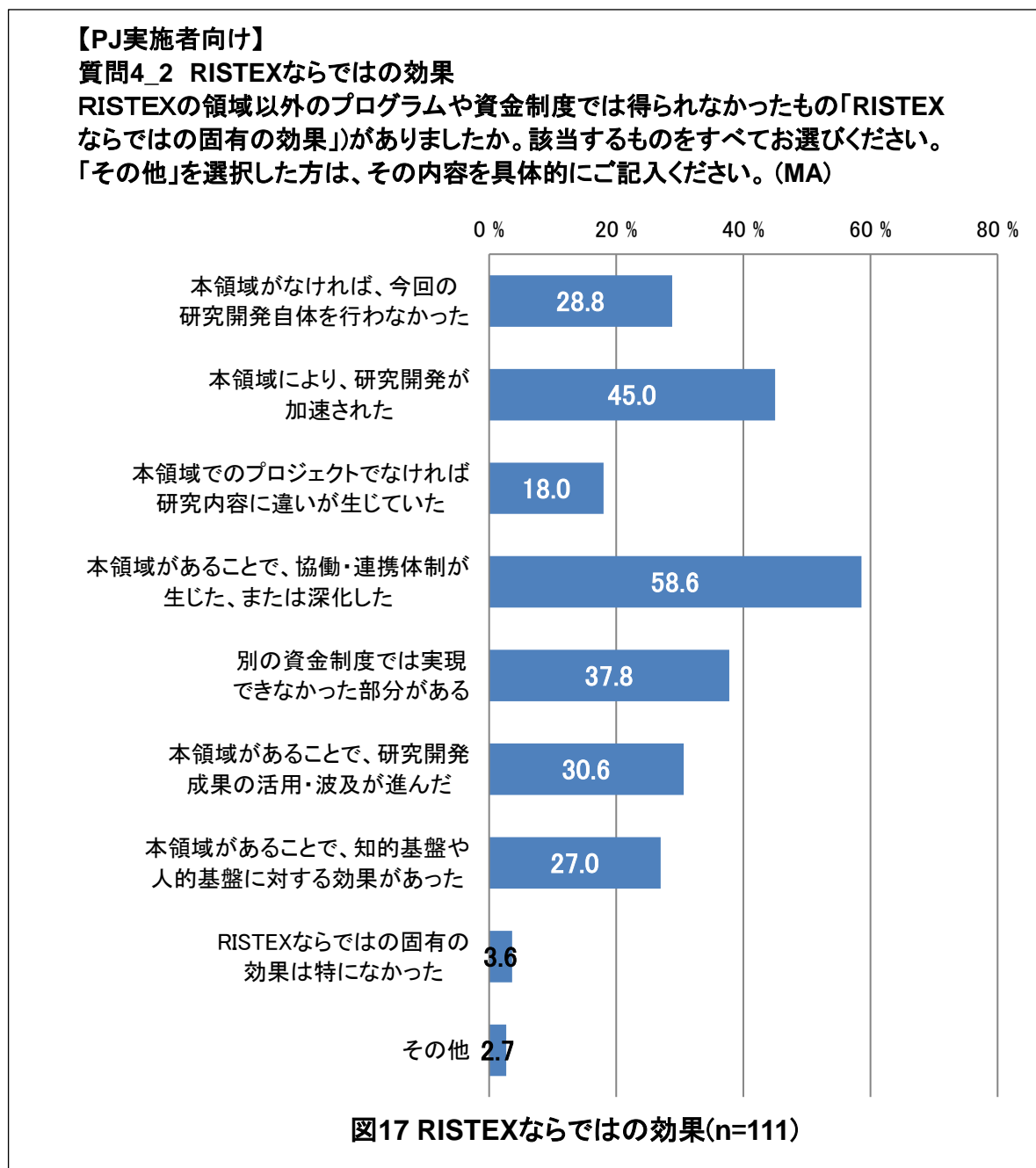
###### (研究内容への影響)

- 各 PJ の内容を進化させることができた
- ストーリーWG を含め、一部の AD、オフィサーで、領域の目指すところを定期的にブラッシュアップ、深堀した。その結果、領域が向くべきところが明確になり、各 PJ の方向性が明らかに見えるようになってきた



## 4.2 PJ実施者の回答、自由意見から

PJ実施者に、「RISTEXの領域以外のプログラムや資金制度では得られなかったもの（RISTEXならではの固有の効果）」があったかについて尋ねた(図17)。111人の回答者のうち、「本領域があることで、協働・連携体制が生じた、または深化した」が65人(58.6%)で最多であった。次いで「本領域により、研究開発が加速された」が50人(45.0%)、「別の資金制度では実現できなかった部分がある」が42人(37.8%)の順に多い。



続いて、RISTEX の領域ならではの効果について、具体的に尋ねた。領域評価フォーマットにおいて例示されている分類に沿って、以下にまとめる。

自治体や若年層、普段関わることのすくない他分野の研究者と協働として研究を進めることができたという、研究実施体制や研究基盤(人材育成)への影響や、研究内容への影響が多く挙げられた。また、社会実装を意識して研究を進めることができたことや、多世代共創の良い影響も見られた。

#### **【PJ 実施者向け】**

##### **質問 4\_3 RISTEX ならではの効果**

**RISTEX の領域ならではの効果について、その内容を具体的にお聞かせください。**

#### **(研究開発の有無や実施速度への影響)**

- 社会実装のための学際的な対話、理論化が加速された
- 本領域がなければ、生産、漁獲、流通、消費、包括的評価、という多岐にわたる研究開発を統合的に行おうという発想が生まれなかった
- 社会技術、実装などの基本的な研究理念手法がなければ社会的な研究はできません

#### **(研究内容への影響)**

- どちらかといえば、実践寄りの研究なので、必ずしも論文などの成果が出にくいですが、社会実装を目指す ristex の予算である為、実践をより深化させる事が出来た
- 他業種、多世代の人々との協働により、課題を多面的に捉えることができた。また、課題解決においては多くの視点から、取るべき行動を見定めることができた
- 社会実装を成果とすることにより、プロジェクト後の持続可能性を意識した研究開発を行うことができた
- 技術開発に偏重せず、社会活動を活発化した
- 多世代連携等の条件を課されたことが、研究内容に厚みをもたらした効果がある

#### **(研究実施体制への影響)**

- 研究者間だけでなく、NPO 法人、自治体などとの連携がより深まった。科研費研究ではできないこととして、地域の若い世代に主体的に関わってもらうことができた
- 多世代共創を意識した結果、若年層との連携関係が生まれた
- 国がサポートしていることにより地域住民の信頼を獲得しやすくなった
- 自治体との実践的な活動面での協働は他の研究資金ではやりにくかったと思われる
- RISTEX 領域であることで、建築・土木・都市計画・情報分野の横連携がしやすかった効果がある
- 現地事務所開設、専従研究員確保を可能とし、影響力が大きく実行力の高い社会技術開発に役立つと実感した

### **(研究成果やその活用・波及への影響)**

- 集中的・集約的なハンズオンが実施された結果、それぞれのサイトにおいて法人設立等のコア組織設立までこぎつけることができています
- できるだけ多世代の人々に関わってもらおう事で、あまみず社会を長期的に目指すしぐみに近づいたと思う
- 実際に市民と連携することにより、技術開発と同時に社会実装を真剣に考えることになった。特に、多世代に使っていただけそうなスマートスピーカの利用に気がついた事はエポックメイキングである

### **(研究基盤への影響)**

- さらに研究を継続するための重要な人材を養成することができた
- 智頭林業の未来を担う若手人材の裾野が広がっていくきっかけとなったこと
- 多様な分野の人々が参画した社会実験が地域の実践的な人材育成に繋がり、過疎の山村に未来への展望を見出させつつある

PJ 実施者に対するその他の設問から、「RISTEX ならではの効果」に関連すると思われる自由意見も同様に以下に記載する。

### **(研究開発の有無や実施速度への影響)**

- 領域側からの助言をうけたことで、「こういった方向性で動いて良いのだ」と安心して動くことができた。それによって、PJ の進行速度が速まったように感じている
- 概念やキーワードの構造・定義・解釈・解説について、領域合宿でのワークショップや AD とのやり取りを通じて、より明確になり研究開発が促進された

### **(研究内容への影響)**

- 研究が机上の空論にとどまらず、社会に実用的なものになった
- 領域合宿やサイトビジットを通して、PJ の計画時に実施内容や語義において曖昧だった部分を指摘・指導いただいたり、また実施者らには見えていなかった課題に気づかされるなど、有意義な機会が多くあった
- 企業との連携において停滞したときに、方向転換を指示していただけたこと

### **(研究実施体制への影響)**

- 連携先を一つに絞ると、多世代の参加がえられなくなっていったという課題があった。PJ 内で中間支援の意識を共有し、それぞれの世代にあった参加動機をヒアリングし、調整をはかった
- 地域町役場とはプロジェクトのすべての活動について共催とする契約を締結し、それはプロジェクト終了後も継続している。地域コミュニティ(地区、老人会)、小学校、老人ホーム

などとの連携は町役場の仲介の下、スムーズに進めることができ、プロジェクト終了後も継続しているものもある

#### **(研究成果やその活用・波及への影響)**

- ソフト事業だけでなくPJ オフィス等のハードの設定によりノウハウやナレッジの蓄積場所  
が地域にできつつある
- 情報発信の環境もできた
- 町の林業ビジョン策定に多様な人が参画したり、林業の伝統技術を承継するための聞き  
書きを実施する事により、智頭林業を後世に残していく基盤が形成されつつある

#### **4.3 成果の担い手・受け手の回答、自由意見から**

成果の担い手・受け手には RISTEX ならではの効果を直接尋ねていないが、その他の設  
問に対する自由意見から、RISTEX ならではの効果と読み解くことができる回答を以下に記  
す。成果の担い手・受け手では成果の受け手の意識変容がみられたとの意見が多い。

#### **(研究実施体制への影響)**

- 担い手不足、高齢化が進む衰退産業と向き合う中で、孤独と背中合わせで活動してきた。  
それが技ありPJのおかげで繋がりができ、仲間意識が芽生え、お互いの素材をシェアす  
るような関係にまで至った
- 縦割りで横のコミュニケーションが少なかった福祉事業所や社会福祉協議会等とも領域  
横断的なコミュニケーションが取れるようになってきている

#### **(研究基盤への影響)**

- 市民が主体で行ったので、技術が市民レベルに浸透した
- この活動に参加してくださっている方々が、ご自身たちで活動そのものの課題を考え、提  
案してくださるようになった
- 人とのつながりが増え(濃く)なりました。また外部からの情報や刺激が地域を盛り上げてく  
れていると思います
- 住民の認知や意識が変化しつつある
- 誰かにやらされているのではなく、区民から主体的な言動、行動がみられたため
- 地域資源や人材の掘り起こしにつながりました

## 5. RISTEX 方針との整合性

ここでは、今回の調査結果の全体から、領域評価フォーマットで示されている「RISTEX の方針」のうち、アンケートで整合性が確認可能と思われる、「ユーザーとの共同」と「社会実装への意識」について取り纏める。AD から一部不足感も聞かれるものの、両方針とも整合性が感じられる自由記述が随所で確認された。以下、回答者の属性毎に分析結果を記載する。

### 5.1 「問題の関与者やユーザーとの共同」への整合性

関与者、ユーザーとの共同の状況について、成果の担い手・受け手の PJ への関与に関する設問を基にみていく。

はじめに、PJ への参加の経緯について、自由回答形式で尋ねた結果を確認する。

#### 【成果の担い手・受け手向け】

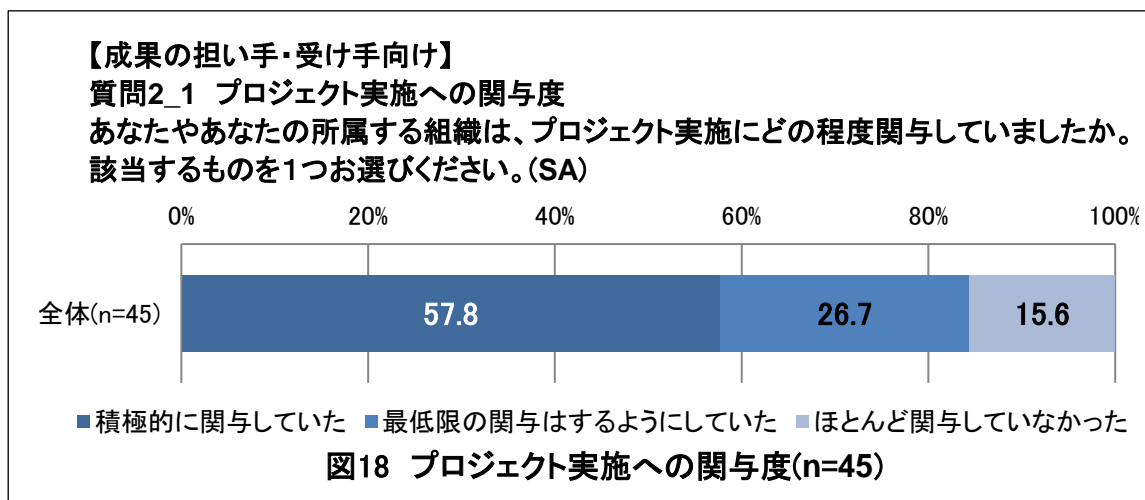
##### 質問 1\_3 プロジェクト参加の経緯

今回のプロジェクトに関わるようになった経緯をお聞かせ下さい。特に、きっかけや理由が分かるよう、できるだけ具体的にご記入ください。

PJ 参加の経緯としては「当法人の理念に、PJ 実施者のひとりが共感してくれたことがきっかけ」、「未来の暮らし方を育む泉の創造プロジェクトにおいて、モデル地域としてお声がけいただいた」のような PJ の関係者から声掛けがあった、というものが多く、他には「市役所からの提案とグループのしたいことが一致したため」、「PJ の話を伺い、当社の事業に役立ち且つ社会貢献、社会問題解決につながるのではないかと考えた。又個人的にも自分の価値観、指向にも一致していた」のように 自分や所属するグループの関心のある分野と PJ の内容が近かった からというきっかけ、経緯が比較的多い。

次に、成果の担い手・受け手にPJ実施にどの程度関与していたか尋ねた結果を確認する(図18)。

回答者45人のうち、26人(57.8%)が「積極的に関与していた」、12人(26.7%)が「最低限の関与はするようにしていた」、7人(15.6%)が「ほとんど関与していなかった」と回答した。TOP2(「積極的に関与していた」、「最低限の関与はするようにしていた」と回答した人は38人(84.5%)である。回答率が低いため、関与の低い人はアンケートに回答しなかった可能性もあるが、少なくともアンケートに回答した担い手・受け手に関しては、ほとんどの者がある程度の関与をしていたと考えられる。



成果の担い手・受け手がどのようにPJに関わっているかについて、以下に一部回答を抜粋する。

**【成果の担い手・受け手向け】**

**質問2\_2 関与の具体的な内容**

プロジェクト実施にどのように関与されたのか、できるだけ具体的にお聞かせ下さい。

- プロジェクトオフィスの運営。また林業および福祉を繋ぐ中核人材及びサポートデザインセンターの実装主体として
- 地域の実施主体として関係者と一緒に活動を展開した
- 多世代交流イベントの運営支援、普及啓発、協議会への出席他
- 大学と役場や自治体内の団体との連絡調整
- PJと共同で市民とのワークショップを4回開催その結果も踏まえ当市でシンポジウムを開催
- PJで開発しているシステムの試用

PJ に関与する上で課題や困難であった点についても尋ねた。

#### **【成果の担い手・受け手向け】**

##### **質問 2\_3 関与上の課題や困難な点**

**プロジェクト実施に関与する上での課題や困難な点があった場合は、具体的にご記入ください。プロジェクト・メンバーとのコミュニケーションに関する課題や悩みでも結構です。**

PJ 実施者からも同様の意見があげられていたが、関係各所とのコミュニケーションに苦労したとの意見が比較的多くみられる。具体的には、「複数団体が連携しながら事業を進めるため、お互いの期待と達成度にずれが生じることもあった」、「PJ メンバーが PJ のフィールドに赴く日数は限られている。そんななかで地域の人々と交流し関係を構築させるためには、間に入る人の存在が不可欠」などの意見が見られた。

また、PJ の内容や意義を市民などのステークホルダーに伝えることにも工夫が必要との声があった。具体的には、「PJ が目指す学術的なことが、いかに地域住民が共感できる話として落とし込んで説明できるかという部分が難しい」、「私自身は知見も増え、それなりに実行して効果も確認できたが、ワークショップ等の参加者にそれを実行した方々がどれ位いたか、どの程度理解が進んだか追跡できてない」などの意見が見られた。

AD、PJ 実施者のアンケート回答結果からも、「問題の関与者やユーザーとの共同」への整合性に関連する回答や自由意見をまとめる。

#### **AD の自由意見から**

特に効果的であった領域活動・工夫、課題等を尋ねる質問において、「領域内外のステークホルダーを巻き込み、当事者を増やす地道な取り組み」という記述や、領域成果の担い手・受け手として領域がアプローチした対象を尋ねる質問において、「研究成果がでてから担い手を採すのでは遅すぎる。研究開始時、あるいは1年以内に、担い手になりえる人が参加するチームメイキングが必要ではないか」との意見が挙がった。

#### **PJ 実施者の選択回答・自由意見から**

前述の「4.1 RISTEX ならではの効果」の質問では、「協働・連携体制の発生、深化」を選択した回答者が最も多く、自由回答でも「協働」のキーワードが多く見られ、様々なステークホルダーとの協働・連携体制が発生もしくは深化した、といった記述がみられた。他の資金制度ではできなかったこととして、地域の若い世代との連携も生まれたとの意見もあり、RISTEX の基本理念への整合性が感じられる。

「問題の関与者やユーザーとの共同」という RISTEX の基本理念への整合性については、AD からは共同の不足を指摘する意見もあるものの、PJ 実施者、成果の担い手・受け手では整合性が確認される意見が多く見られた。

## 5.2 「研究開発の実施段階から成果の「社会実装」を十分に意識」への整合性

研究開発の実施段階から成果の「社会実装」を十分に意識できていたかどうかについては、AD、PJ 実施者、成果の担い手・受け手のどの回答からも「社会実装」というキーワードは多く見られ、社会実装が意識されていたことが確認できる。

### AD の自由意見から(全ての自由記述から)

AD からは社会実装が重要であることは認識しつつも対応できていない、成果をあげられていないとの声があるが、「社会実装」を意識しているからこそそのような意見が出るといえる。

- デジタル技術革新と低下価格化これをうまく活用することが、ビジネス化や社会実装に重要であるが、対応できていない
- 多世代共創の意義や社会実装の重要性は、採択前の説明会や採択後も繰り返し説明、議論されてきたが、浸透したとは言えなかった
- PJ 終了後の社会実装などへの関心や責任についても同様(属人的)な印象は強い

### PJ 実施者の自由意見から(RISTEX ならではの効果の自由記述から)

PJ 実施者に「RISTEX ならではの効果」について自由記述で尋ねた質問では以下のような回答が上がり、「社会実装」が意識されていたと言える。

- 社会技術、実装などの基本的な研究理念手法がなければ社会的な研究はできません
- 実装を目的とすることで、研究者以外への連携効果が高かったと感じる
- 社会実装を成果とすることにより、プロジェクト後の持続可能性を意識した研究開発を行うことができた
- 社会実装のための学際的な対話、理論化が加速された
- 実装を目的にしていることが「ならでは」と感じる
- 「社会実験」ではなく、「社会実装」を目標としていることで、研究開発のミッションを強く意識でき、モチベーションが引き上げられた
- 実際に市民と連携することにより、技術開発と同時に社会実装を真剣に考えることになった
- 技術や知識・知恵の社会実装を中心に行っているため、常にこれを意識し、実現に努めることができた

### 成果の担い手・受け手の自由意見から(全ての自由記述から)

成果の担い手・受け手に自由記述で尋ねた質問に対する回答にも「社会実装」に関する記述が各所でみられ、社会実装が意識されているとみられる。

- 具体的な実装者の姿が見えてきている
- プロジェクトオフィスの運営。また林業および福祉を繋ぐ中核人材及びサポートデザイン



センターの実装主体として(PJに関与した)

- 実装の主体となる地元地域と東北大学との連携調整を進めるとともに、自治体として主体的な実装への取り組みを進めていた
- 自治体に担当部署を置き、実装地域、企業との連絡調整を行っている

## 6. 意見・提案

「アドバイザー制度について」、「研究期間や予算について」、「RISTEX への意見・要望」の3つの項目について、それぞれの意見や要望を以下にまとめた。

### 6.1 アドバイザー制度の改善提案

AD に対して、アドバイザー制度の改善点や改善提案について尋ねた。

#### 【AD 向け】

#### 質問 6\_1 アドバイザー制度の改善点・提案

アドバイザー制度の改善点や改善提案があればご記入ください。

「現場での Specific な取り組みに関心をもつ AD、他への移転・実装に着目する AD など、多様な切り口で対応できる体制は効果的であろう」、「プロジェクトごとにアドバイザーが付くのは良い。担当は変わらないで、プロジェクトごとに十分議論できた方がよい」といった、AD の体制や PJ ごとの担当制を評価する意見、「みなさん、多忙な方々なので、アドバイザー同士のディスカッションの時間が十分にとれなかった。アドバイザーと事務局だけの合宿もあつたら良かったかもしれない」のような、AD 同士の議論の時間が必要という意見、「依頼時以上に用務が多かったため、用務範囲やその内容についてもっと詳しい説明がほしかった」のような、AD の用務範囲についての詳しい説明を求める声がある。

参考として、PJ 実施者、成果の担い手・受け手から挙げられたアドバイザー制度に関連する自由意見を以下に記載する。

#### PJ 実施者の自由意見から

- 私が現在少し関わっている PJ に関しては、もっと早い時期から、もっと強い『指導』があつてもよかったのではないかとの感想をもつ
- AD の位置づけがいまいちわからない。間接的に何らかの意見は頂いているのかもしれないが、直接議論できる場があればよいと思った
- 領域の方でどのような議論がされているのか見えにくいように感じました
- AD とのマッチングについて、研究者サイドも関与できるしくみがあると良いと思います
- 全 PJ を俯瞰できる立場から、方法論に関する知見の蓄積やアドバイスが欲しかった。例えば、イベント方法、アンケートのとり方、解析方法など
- AD はあまり機能していなかった。それぞれ多忙な人なので、致し方ないかと思う
- 領域 AD の熱意に格差が大きいと感じた。特に、一部の AD に多忙を理由に会議や合宿などのイベントに殆ど出席しない人がいたことには驚いた

## 成果の担い手・受け手の自由意見から

- 成功事例の紹介など、具体的にご存知のことなど、今回のPJの実践につながる具体的なアドバイスを頂きたかった。また、広い知見からのPJの展開可能性の有無についてご意見を頂きたかった
- 多世代共創PJ内に医療福祉分野の領域ADがいると、活動に対する共感や意見が得られたのかもしれないが、現状はPJ内でも理解しているメンバーに限られているので関わりにくいと感じる

## 6.2 研究期間や予算への意見・提案

ADに対して、研究期間や予算への意見・提案について尋ねた。

### 【AD向け】

#### 質問 6\_2 研究開発期間や予算への意見・提案

領域としての成果創出や目標達成に向けて、領域やプロジェクトの期間および予算の規模・使い方などについて、ご意見や改善提案があればご記入ください。

「活動内容から見ると、予算は潤沢すぎるのでは。イベント的な活動が多い割には、多世代共創の社会デザインに繋がっていない。活動の補助金とにならないように管理が必要」、「科研費に比較して、多額の研究費が用意されているが、旅費等に使われるケースも多く、進行管理と経費の使い方には、もっと注視、管理する必要があると思われる」、「成果が出ていないところにも規模の大きな予算がつけられており、予算と成果は連動させた方が良いのではないか」のように、ほとんどの回答が予算の使途に関するものであった。

他には、「研究期間や予算額については、採択課題によって柔軟性が必要であり、そのように運営されたケースが多かったと考える」といった、予算については柔軟性をもたせるべきであるが、そのように運営されたケースが多かったとの意見が挙がる。

参考として、PJ実施者、成果の担い手・受け手から挙げられた研究開発期間や予算に関連する自由意見を以下に記載する。研究期間については、双方とも長期化を望む回答が見られた。予算の規模・使い方については、PJ実施者から使途の柔軟性を望む意見が多く挙げられた。予算規模が小さいという類いの発言は見られなかった。

### PJ実施者の自由意見から

#### (研究期間について)

- このような研究領域の影響は研究期間というスポットではなく、数十年とかけて地域に非常に大きな影響をもたらしてゆくと思う。そのような意味では少し長いスパン(研究期間終了10年後の成果振り返り等)で地域を見るべきだと思う
- 進捗評価をしっかりとしながら、研究開発期間をもっと長期間にした方がよいのではないだろうか

### **(予算の規模・使い方について)**

- 同じPJ内であっても大学とそれ以外の経費処理(特に研究実施者の人件費)については別扱いをしてほしい
- 最初から少ないPJに大きな金額を与えるのとは逆に、やや多めのPJに少額のスタートアップ資金を提供し、その研究成果を見て、翌年度以降に数を絞って大きめの金額を与えて継続させる、という手法をとるのはいかがでしょうか？単に研究資金を取りに来ているのか、本当に社会的課題を解決しようと努力しているのかを見分けることができるように思います
- 事務スタッフの人件費が支出できるように改善してほしい。円滑なPJ運営には事務面でのサポートが不可欠
- 研究開発プロセスにおいてはより適切な方法を求め当初の年度計画のとおり実施しないこともあるので、研究実施期間内であれば前々年度の予算も使えるようにしてほしい
- 経費の支払いが四半期ごとの概算払いは、活動資金に余裕が無ければ難しい。今回は、私が所属している会社での立て替え等の支援や、外部への支払いを待ってもらうなどの協力を受けた

### **成果の担い手・受け手の自由意見から**

- 研究期間が短いように感じました。成果が出てきたところで期間が終了となってしまったので残念です
- 途中から参加したということもありますが、3年間といった長い研究期間となることが多いと思います。行政などは職員の異動があり、担当が変わることもあるので、研究の進捗管理のような仕組みがあると周囲の人にもわかりやすいかと思いました
- 研究期間がもっと長期間でも良いと思う

### 6.3 RISTEX への意見・要望

AD、PJ 実施者、成果の担い手・受け手に対して、RISTEX への意見・要望を自由記述形式で尋ねた。

AD からは、(社会実装や領域目標の達成が優先されるため)研究開発という面で新規性がない、PJ にどの程度深くコミットするのかが不明瞭、オフィサーたちが領域の責任者として領域の向かう方向や内容に関して、もっと意見を出すべき、などの意見が挙がった。

PJ 実施者からは、AD に関する意見や予算・経費の使途に関する意見が多く挙がった(6.1、6.2 で記述)。他には、スケジュールの大きな枠組みの共有や、情報発信やレビューにおいて労力や負担が多かったなど、スケジュールや負担に関する意見がみられた。

成果の担い手・受け手からは、研究期間の長期化を望む意見が多く挙がった(6.2 で記述)。他には、研究への継続支援を望む意見や、地域内での持続的な取り組みに向けた考え方やノウハウの共有を求める声、PJ の取り組みの経過発信が外部にも感じられる機会を期待する意見などが見られた。予算、研究期間に関する意見(6.1、6.2 で記述)以外の主な自由意見を以下に記載する。

#### AD の自由意見から

- 社会実装や領域目標達成のための細かな行動が優先されるため、そうした形式をクリアすることに重点が置かれ、研究開発という面で新規性がないように感じられた
- PJ へのアドバイス、方向性、取りまとめ、軌道修正など、どの程度深くコミットするのか、すべきなのかなど、PJ 側にどのように対応を求めるのかなど、より明確になっても良いかと思えます
- オフィサーたちが、領域の責任者として、領域の向かう方向や内容に関して、もっと意見を出すべき。アドバイザーにダメ出しを出すような強い立ち位置であっても良いのではないかと強く思う
- 事務局の主担当スタッフが途中で変わり、少し滞った印象があったが、大守総括の丁寧なリーダーシップにより領域全体の成果創出に向けて取り組むことができた
- もっと、マスコミ等への広報に力を入れて、多額の研究費についての説明責任を果たすべきだろう

#### PJ 実施者の自由意見から

- 各 PJ から参加者を募って、サイトビジットができればよかった。PJ 相互の実践のシェアをもっと積極的に進めていけると良いと思った
- 本領域だけでなく、他の領域から得られた知見をも踏まえて得られる持続可能な社会の実現のための、新領域のプログラムをご提案いただきたい
- 当初想定より情報発信やレビューの点において労力や負担が多くあった。本来の研究実践の時間がそちらに割かれた側面がある。実施者自身のマネジメントの問題という面もあ

ると反省する。今後の採択ではそれらに対する負担を考慮していただけるとよいと思う

- 年間スケジュール、合宿その他の回数や日時設定など、大きな枠組みを常に情報共有頂ければ有難いと考えます
- 合宿への参加は、子育て中の若い研究者は大変苦勞していました。ネットワーク作りは重要ですが、多様な立場の人が参加しやすい別の方法を考える必要があると思います

#### **成果の担い手・受け手の自由意見から**

- これまでPJを実施された自治体のPJ関係者の方々から、新PJ開始時(もしくは途中で)に、その関係者が集まる場で、経験談やアドバイスをお聞きできる機会があればと思いました
- 成果の見えづらい課題が多くありますが、研究者支援を充実し、私たちの暮らしが豊かになる可能性を見出せる研究への支援を継続してほしい
- 今後とも、官民協働となった課題解決分野の積極的な支援が果たされることを望む。また、研究領域にもよるが、途中から協働参画が望めるような、研究領域の積極的な周知・啓発もぜひお願いしたい
- 地方の特徴に合わせたPJの展開が必要と思いました
- 今後は、地域内での持続的な取り組み推進に向け、市内の民間事業者やNPO、大学等と連携いただき、考え方やノウハウ等を共有いただきたい
- PJの日々の取り組みの経過発信が外部にもリアルに感じる機会があればと思います

## 付録 アンケート票(AD)

- ※ 質問の戻りは可とする
- ※ 途中保存可能とする

### 1. 領域を取り巻く外部環境についておたずねします

回答条件 全員に表示

外部環境の変化と対応状況

1	SA	Q1_1	<p><b>【外部環境の変化と対応状況】</b></p> <p>領域がはじまった当時（平成26年度）と比較し、領域をとりまく問題状況や社会情勢は変化していると思いますか。また、変化に対し、領域として適切に対応できたと思いますか。該当するものを1つお選びください。</p> <p>1 変化はあったが、適切に対応できた 2 変化はあったが、十分に対応できなかった 3 対応が必要なほど大きな変化はなかった</p>
---	----	------	--

### 改ページ

回答条件 Q1=1or2

外部環境の変化と対応の内容

1	FA	Q1_2	<p><b>【外部環境の変化と対応の内容】</b></p> <p>領域をとりまく問題状況や社会情勢にどのような変化があったのか具体的にご記入ください。また、適切に対応できた、もしくは十分に対応できなかったと考える理由もご記入ください。</p>
---	----	------	---

※任意

### 改ページ

### 2. プロジェクトとのコミュニケーションについておたずねします

回答条件 全員に表示

プロジェクトとのコミュニケーション程度

1	SA	Q2_1	<p><b>【プロジェクトとのコミュニケーション程度】</b></p> <p>(担当プロジェクトを中心にお答えください。)</p> <p>RISTEXでは、領域の成果創出と目標達成に向けて、採択後もプロジェクトに対して関与するハンズオンマネジメントを実施していますが、プロジェクトとのコミュニケーションは十分にとれていたと思いますか。該当するものを1つお選びください。</p> <p>1 コミュニケーションがとれた 2 それなりにコミュニケーションがとれた 3 あまりコミュニケーションがとれなかった 4 コミュニケーションがとれなかった</p>
---	----	------	---

回答条件 全員に表示

プロジェクトとの効果的なコミュニケーション手段

1	MA	Q2_2	<p><b>【プロジェクトとの効果的なコミュニケーション手段】</b></p> <p>(担当プロジェクトを中心にお答えください)</p> <p>プロジェクトの実施段階において、プロジェクトを育むために効果的だと思うコミュニケーション手段や取組を3つ以内でお選びください。「その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入ください（全角100字以内）。</p> <p>「プロジェクトを育む」とは、プロジェクトと領域の問題意識およびコンセプトとの親和性の向上や方向性の調整、社会問題の解決に向けた協働や社会実装を重視した研究開発計画の具体化、改善等に取組むことです。</p> <p>1 プロジェクトの計画書や報告書のやり取り 2 プロジェクトごとの進捗報告会や意見交換会 3 サイトビジット 4 合宿等の領域全体会議 5 領域主催のシンポジウム、セミナー、サロン等 6 担当アドバイザーとのやり取り、コミュニケーション 7 領域担当との日常的なやり取り、コミュニケーション 8 領域メーリングリストを利用した情報交換 9 プロジェクト間連携の促進のための場作り 10 領域による情報発信（領域WEBやパンフ等） 11 その他（全角で100字以内）</p>
---	----	------	--

※3つまで選択可

回答条件 全員に表示

領域活動によるプロジェクトへの影響

1 FA Q2\_3

**【領域活動によるプロジェクトへの影響】**  
 プロジェクトの実施段階における領域活動（プロジェクトとのコミュニケーション及びハズオンマネジメント）によって、どのような影響や効果がプロジェクトにあったのか、できるだけ具体的にご記入ください。  
 （良い影響だけでなく、もし悪い影響もあれば合わせてご記入ください）

※任意

改ページ

### 3. 領域活動・工夫についておたずねします

回答条件 全員に表示

領域活動・工夫の程度

1 SA Q3\_1

**【領域活動・工夫の程度】**  
 募集・選考や、個別プロジェクトの研究開発の推進とは別に、“領域として”の成果創出や領域目標の達成に向けた領域活動や工夫は十分に行われたと思いますか。該当するものを1つお選びください。ここでいう“領域活動や工夫”には、以下のようなものが含まれます。

- ・領域としてのロジックモデルの策定
- ・領域のコンセプトの検討・深化（ストーリー・ワーキンググループ等）
- ・領域としてのリサーチエグゼクションの策定
- ・キーワード集・ハンドブック等の作成
- ・プロジェクトポートフォリオに基づく整理
- ・複数プロジェクトを横断した取組の実施や促進
- ・領域内外のステークホルダーを巻き込む活動
- ・領域主催のシンポジウム、セミナー、サロン等
- ・領域による広報・情報発信（領域WEBやパンフ等）

- 1 成果創出、目標達成に向けた領域活動が、十分に行われた
- 2 成果創出、目標達成に向けた領域活動が、それなりに行われた
- 3 成果創出、目標達成に向けた領域活動が、あまり行われなかった
- 4 成果創出、目標達成に向けた領域活動が、不十分であった

回答条件 全員に表示

効果的な領域活動・工夫

1 MA Q3\_2

**【効果的な領域活動・工夫】**  
 領域の成果創出と目標達成に向けて効果的だと思う領域活動や工夫を3つ以内でお選びください。  
 「その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入ください（全角100字以内）。

- 1 領域としてのロジックモデルの策定
- 2 領域のコンセプトの検討・深化（ストーリー・ワーキンググループ等）
- 3 領域としてのリサーチエグゼクションの策定
- 4 キーワード集・ハンドブック等の作成
- 5 プロジェクトポートフォリオに基づく整理
- 6 複数プロジェクトを横断した取組の実施や促進
- 7 領域内外のステークホルダーを巻き込む活動
- 8 領域主催のシンポジウム、セミナー、サロン等
- 9 領域による広報・情報発信（領域WEBやパンフ等）
- 10 その他（全角で100字以内）

※3つまで選択可

回答条件 全員に表示

領域活動・工夫の効果や課題

1 FA Q3\_3

**【領域活動・工夫の効果や課題】**  
 “領域として”の成果創出と目標達成に向け、実施して特に効果的であった領域活動や工夫はどのようなものでしたか。どのような点で効果的であったかを含めて具体的に記入ください。  
 また、実施した領域活動や工夫において認識した課題点や、本来は行うべきであったと思う領域活動や工夫があれば、具体的に記入ください。

※任意

改ページ



#### 4. 領域のアウトカムについておたずねします

回答条件 全員に表示

成果創出と目標達成の程度

- 1 SA Q4\_1 **【成果創出と目標達成の程度】**  
領域目標の達成や、狙いとした成果の創出はどの程度できたと思われますか。該当するものを1つお選びください。
- 1 目標達成や狙いとした成果創出ができています
  - 2 それなりに目標達成や狙いとした成果創出ができています
  - 3 あまり目標達成や狙いとした成果創出ができていない
  - 4 目標達成や狙いとした成果創出ができていない

回答条件 全員に表示

成果の担い手・受け手

- 1 FA Q4\_2 **【成果の担い手・受け手】**  
領域成果の担い手・受け手として領域がアプローチした対象にはどのような人や組織がいますか。特に領域として対話や連携などに注力した方々がいたら、その理由や方法も合わせてご記入ください。
- ※任意

回答条件 全員に表示

成果の普及展開のネットワーク形成

- 1 SA Q4\_3 **【成果の普及展開のネットワーク形成】**  
領域の成果を社会に普及・展開するために必要なネットワークは形成されたと思いますか。該当するものを1つお選びください。
- 1 形成されてきている
  - 2 それなりに形成されてきている
  - 3 あまり形成されてきていない
  - 4 形成されてきていない

回答条件 全員に表示

具体的なアウトカム

- 1 FA Q4\_4 **【具体的なアウトカム】**  
領域全体としてどのような“アウトカム”が創出できたと思いますか。できるだけ具体的にお聞かせください。
- ※任意

回答条件 全員に表示

インパクト創出の見込み

- 1 FA Q4\_5 **【インパクト創出の見込み】**  
領域のアウトカムが今後、具体的にどのようなインパクトをもたらすことが期待されますか。これまでの領域活動等を踏まえて、インパクトの展望をお聞かせください。また、将来更なるインパクトをもたらすために、今後期待される取組があれば、誰がどのような取組をすることが望まれるかご記入ください。
- ※任意

## 5. 領域のアウトカムについておたずねします

回答条件 全員に表示

自身や周りの変化

- 1 MA Q5\_1 **【自身や周りの変化】**  
アドバイザーとして領域の活動に関わるようになったことで、ご自身や周りに何か変化がうまれましたか。該当するものをすべてお選びください。  
「その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入ください（全角100字以内）。
- 1 ステークホルダー協働で行う研究開発の可能性を感じるようになった
  - 2 これまでとは異なる問題解決の可能性を感じるようになった
  - 3 自分が関心を持つ社会問題の見方が変わった
  - 4 自分の研究テーマの意義や内容が変わった
  - 5 自分の実務・実践の意義や内容が変わった
  - 6 新たな研究課題の設定・抽出ができた
  - 7 新たな実践・活動が生まれた
  - 8 研究者とのネットワークが広がった
  - 9 研究者以外の様々な人々とのネットワークが広がった
- 10 特に目立った変化はない  
11 その他（全角で100字以内）

回答条件 全員に表示

RISTEXならではの効果

- 1 FA Q5\_2 **【RISTEXならではの効果】**  
RISTEXの領域以外のプログラムや資金制度では得られないような「RISTEXならではの固有の効果」を、プロジェクト実施者をはじめ領域のステークホルダーにもたらしていると思いますか。具体的な効果についてご記入ください。
- ※任意

## 6. ご意見・提案についておたずねします

回答条件 全員に表示

アドバイザー制度の改善点・提案

- 1 FA Q6\_1 **【アドバイザー制度の改善点・提案】**  
アドバイザー制度の改善点や改善提案があればご記入ください。
- ※任意

回答条件 全員に表示

研究開発期間や予算への意見・提案

- 1 FA Q6\_2 **【研究開発期間や予算への意見・提案】**  
領域としての成果創出や目標達成に向けて、領域やプロジェクトの期間および予算の規模・使い方などについて、ご意見や改善提案があればご記入ください。
- ※任意

回答条件 全員に表示

RISTEXへの意見・提案

- 1 FA Q6\_3 **【RISTEXへの意見・提案】**  
今後のRISTEXや領域運営の改善に向けて、ご意見や改善提案があれば、お聞かせください。
- ※任意

回答終了

## 付録 アンケート票(PJ 実施者)

- ※ 質問の戻りは可とする
- ※ 途中保存可能とする

### 1. 領域側の活動についておたずねします

回答条件 全員に表示

領域活動の影響程度

1 SA Q2\_1 **【領域活動の影響程度】**  
プロジェクトの実施過程で、領域側の活動等から何らかの影響を受けましたか。該当するものを1つお選びください。

- 1 影響を受けた
- 2 それなりに影響を受けた
- 3 あまり影響を受けなかった
- 4 影響を受けなかった

改ページ

回答条件 Q2\_1=1-3の回答者

影響を受けた領域活動

1 MA Q2\_2 **【影響を受けた領域活動】**  
次の中から、影響の大きかった領域側の活動を3つ以内でお選びください。  
[その他]を選択した方は、その内容を具体的に記入ください（全角100字以内）。

- 1 プロジェクトの計画書や報告書のやり取り
- 2 プロジェクトごとの進捗報告会や意見交換会
- 3 サイトビジット
- 4 合宿等の領域全体会議
- 5 領域主催のシンポジウム、セミナー、サロン等
- 6 担当アドバイザーとのやり取り、コミュニケーション
- 7 領域担当との日常的なやり取り、コミュニケーション
- 8 領域メーリングリストを利用した情報交換
- 9 プロジェクト間連携の促進のための場作り
- 10 領域による情報発信（領域WEBやパンフ等）
- 11 その他（全角で100字以内）

※3つまで選択可

改ページ

回答条件 全員に表示

領域活動の具体的影響や改善提案

1 FA Q2\_3 **【領域活動の具体的影響や改善提案】**  
プロジェクトの実施過程における領域側の活動によって、プロジェクトの何がどう変わったのか、できるだけ具体的に記入ください。  
（良い影響だけでなく、もし悪い影響もあれば合わせて記入ください）  
また、領域側がプロジェクト実施過程に関与する活動に対して、改善提案があれば記入ください。

※任意

改ページ

### 2. 成果の創出、目標達成についておたずねします

回答条件 全員に表示

目標達成、成果創出の程度

1 SA Q3\_1 **【目標達成、成果創出の程度】**  
プロジェクト目標の達成や、狙いとした成果の創出はどの程度できたと思われますか。該当するものを1つお選びください。

- 1 目標達成や狙いとした成果創出ができた
- 2 それなりに目標達成や狙いとした成果創出ができた
- 3 あまり目標達成や狙いとした成果創出ができなかった
- 4 目標達成や狙いとした成果創出ができなかった

回答条件 全員に表示

課題の克服と要因

1 FA Q3\_2 **【課題の克服と要因】**  
プロジェクト目標の達成や成果を創出する上で、どのような困難や課題がありましたか。  
それをどのように克服（または対応）したのか、成功や失敗の要因も含めて具体的に記入ください。

任意

改ページ

### 3.成果の普及・展開についておたずねします

回答条件 全員に表示

成果の担い手・受け手

1 FA Q4\_1 **【成果の担い手・受け手】**  
成果の普及・展開に向けて、働きかけや情報発信を行うべき成果の担い手（成果を普及展開する人・組織）や、受益者（政府・自治体、各種団体等の利害関係者、市民等）として、どのような人々を想定しましたか。具体的に記入ください。

任意

回答条件 全員に表示

成果の担い手・受け手との連携程度

1 SA Q4\_2 **【成果の担い手・受け手との連携程度】**  
成果の普及・展開に向け、想定された成果の担い手や受益者と何かしらの連携を行いましたか。該当するものを1つお選びください。

- 1 連携した
- 2 十分とは言えないが、何かしら連携した
- 3 あまり連携しなかった
- 4 連携しなかった

### 改ページ

回答条件 Q4\_2=1-3の回答者

連携の内容

1 FA Q4\_3 **【連携の内容】**  
成果の担い手や受益者と連携した内容を具体的に記入ください。

任意

回答条件 Q4\_2=1-3の回答者

連携の課題と対応、成否要因

1 FA Q4\_4 **【連携の課題と対応、成否要因】**  
成果の担い手や受益者と連携する上で、どのような課題や困難がありましたか。それをどのように克服（または対応）したのか、成功や失敗の要因も含めて具体的に記入ください。

任意

### 改ページ

### 4.領域の効果についておたずねします

回答条件 全員に表示

自身や周りの変化

1 MA Q5\_1 **【自身や周りの変化】**  
プロジェクトとして領域の活動に関わるようになったことで、ご自身や周りに何か変化がうまれましたか。該当するものをすべてお選びください。「その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入ください（全角100字以内）。

- 1 ステークホルダー協働で行う研究開発の可能性を感じるようになった
- 2 これまでとは異なる問題解決の可能性を感じるようになった
- 3 自分が関心を持つ社会問題の見方が変わった
- 4 自分の研究テーマの意義や内容が変わった
- 5 自分の実務・実践の意義や内容が変わった
- 6 新たな研究課題の設定・抽出ができた
- 7 新たな実践・活動が生まれた
- 8 研究者とのネットワークが広がった
- 9 研究者以外の様々な人々とのネットワークが広がった
- 10 特に目立った変化はない
- 11 その他（全角で100字以内）

排除

回答条件 全員に表示

RISTEXならではの効果

1 MA Q5\_2

**【RISTEXならではの効果】**  
RISTEXの領域以外のプログラムや資金制度では得られなかったもの「RISTEXならではの固有の効果」がありましたか。該当するものをすべてお選びください。「その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入ください（全角100字以内）。

- 1 本領域がなければ、今回の研究開発自体を行わなかった
- 2 本領域により、研究開発が加速された
- 3 本領域でのプロジェクトでなければ研究内容に違いが生じていた
- 4 本領域があることで、協働・連携体制が生じた、または深化した
- 5 別の資金制度では実現できなかった部分がある
- 6 本領域があることで、研究開発成果の活用・波及が進んだ
- 7 本領域があることで、学会やネットワーク構築、人材輩出など、知的基盤や人的基盤に対する効果があった
- 8 RISTEXならではの固有の効果は特になかった
- 9 その他(全角で100字以内)

排他

回答条件 全員に表示

RISTEXならではの効果の具体内容

1 FA Q5\_3

**【RISTEXならではの効果の具体内容】**  
RISTEXの領域ならではの効果について、その内容を具体的に聞かせください。

任意

改ページ

5.ご意見・提案についておたずねします

回答条件 全員に表示

RISTEXや領域へのご意見・提案

1 FA Q6

**【RISTEXや領域へのご意見・提案】**  
RISTEXや領域運営の改善に向けて、ご意見や改善提案があればお聞かせください。研究開発領域に対するご意見や、このようにして欲しかったと言う感想でも結構です。

任意

回答終了

## 付録 アンケート票(成果の担い手・受け手)

- ※ 質問の戻りは可とする
- ※ 途中保存可能とする

### 1.ご自身についておたずねします

回答条件 全員に表示

プロジェクトでの立場 (役割)

- 1 SA Q1\_1 **【プロジェクトでの立場 (役割)】**  
プロジェクトにおけるご自身の立場 (役割) について、該当するものを1つお選びください。
- 1 研究成果の実装の担い手 (成果を普及・展開する人や組織) の候補
  - 2 研究成果の受け手 (エンドユーザー)
  - 3 その他 (全角で100字以内)

回答条件 全員に表示

プロジェクトでの立場 (所属)

- 1 MA Q1\_2 **【プロジェクトでの立場 (所属)】**  
プロジェクトにおけるご自身の立場 (所属) について、該当するものを全てお選びください。  
[その他]を選択した方は、具体的にご記入ください (全角100字以内)。
- 1 大学等 (共同利用機関を含む)
  - 2 公的研究機関
  - 3 行政 (中央省庁)
  - 4 行政 (地方自治体)
  - 5 民間企業等
  - 6 市民団体 (NPO、自治会等)
  - 7 メディア
  - 8 その他 (全角で100字以内)

回答条件 全員に表示

プロジェクト参加の経緯

- 1 FA Q1\_3 **【プロジェクト参加の経緯】**  
今回のプロジェクトに関わるようになった経緯をお聞かせ下さい。  
特に、きっかけや理由が分かるよう、できるだけ具体的に記入ください。

※任意

改ページ

### 2.プロジェクト実施への関与についておたずねします

回答条件 全員に表示

プロジェクト実施への関与度

- 1 SA Q2\_1 **【プロジェクト実施への関与度】**  
あなたやあなたの所属する組織は、プロジェクト実施にどの程度関与していましたか。  
該当するものを1つお選びください。
- 1 積極的に関与していた
  - 2 最低限の関与はするようにしていた
  - 3 ほとんど関与していなかった

改ページ

回答条件 Q2\_1=1-2の回答者

関与の具体的な内容

- 1 FA Q2\_2 **【関与の具体的な内容】**  
プロジェクト実施にどのように関与されたのか、できるだけ具体的にお聞かせ下さい。

任意

改ページ

回答条件 全員に表示

関与上の課題や困難な点

1 FA Q2\_3

**【関与上の課題や困難な点】**  
プロジェクト実施に関与する上での課題や困難な点あった場合は、具体的に記入ください。  
プロジェクトメンバーとのコミュニケーションに関する課題や悩みでも結構です。

任意

改ページ

### 3. 研究成果の有効性についておたずねします

回答条件 全員に表示

研究成果による現時点での課題解決状況

1 FA Q3\_1

**【研究成果による現時点での課題解決状況】**  
現時点において、プロジェクトの研究成果は、対象とした問題の状況や問題への対応方針に  
何らかの変化や効果を与えましたか。  
具体的にご記入ください。

任意

回答条件 全員に表示

研究成果の今後の有効性

1 SA Q3\_2

**【研究成果の今後の有効性】**  
今後、プロジェクトの研究成果が、どの程度問題解決に有効だと感じていますか。  
該当するものを1つお選びください。

- 1 有効だと感じている
- 2 それなりに有効だと感じている
- 3 あまり有効だと感じていない
- 4 分からない

回答条件 全員に表示

研究成果が有効または有効でない理由

1 FA Q3\_3

**【研究成果が有効または有効でない理由】**  
前問でどのように回答した理由は何ですか。  
特に、有効でない回答した方は、その理由や課題などがわかるように具体的に記入ください。

任意

改ページ

### 4. 研究成果の普及・展開についておたずねします

回答条件 Q1\_2 = 1表示

研究成果の普及・展開先

1 FA Q4\_1

**【研究成果の普及・展開先】**  
研究成果の普及・展開先として、どのような人々や組織と連携されていますか。  
今後の対象も含めて、具体的に記入ください。（例えば、政府・自治体、各種団体等の利害関係者、市民等）  
連携とは、情報発信やコミュニケーション、そのための体制構築などです。

任意

回答条件 Q1\_2 = 1表示

研究成果の普及・展開先との連携程度

1 SA Q4\_2

**【研究成果の普及・展開先との連携程度】**  
研究成果の普及・展開先との連携はどの程度行われていますか。  
該当するものを1つお選びください。  
連携とは、情報発信やコミュニケーション、そのための体制構築などです。

- 1 行われている
- 2 それなりに行われている
- 3 あまり行われていない
- 4 行われていない

改ページ

回答条件 Q1\_2=1かつQ4\_2=1-3表示

研究成果の普及・展開先との連携内容

1 FA Q4\_3 **【研究成果の普及・展開先との連携内容】**  
研究成果を普及・展開する相手との間で、具体的にどのような連携が行われていますか。  
連携とは、情報発信やコミュニケーション、そのための体制構築などです。

任意

改ページ

回答条件 Q1\_2=1表示

研究成果の普及・展開上の課題や成功要因

1 MA Q4\_4 **【研究成果の普及・展開上の課題や成功要因】**  
研究成果を普及・展開する相手との連携について、課題や困難な点があればお聞かせ下さい。  
また、連携が良好に行われたのであれば、その成功要因はどのようなことだと思われますか。  
できるだけ具体的に記入下さい。

任意

改ページ

### 5.プロジェクトの効果についておたずねします

回答条件 全員に表示

ご自身や周りの変化

1 MA Q5 **【ご自身や周りの変化】**  
プロジェクトに関与したことで、ご自身や周りに何か変化がうまれましたか。  
該当するものをすべてお選びください。  
「その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入ください（全角100字以内）。

- 1 これまでとは異なる問題解決の可能性を感じるようになった
- 2 自身の日々の実践に変化が生じた
- 3 研究とはどのようなものか、理解できるようになった
- 4 研究や研究者に対する見方、評価がよい意味で変わった
- 5 所属する組織から関心や理解もしくは支持を得られるようになった
- 6 他の自治体や組織等から、関心をもちたいようになった
- 7 研究者とのネットワークが広がった
- 8 研究者以外の様々な人たちのネットワークが広がった
- 9 特に目立った変化はない
- 10 その他（全角で100字以内）

排除

改ページ

### 6.ご意見・提案についておたずねします

回答条件 全員に表示

ご意見・改善提案

1 FA Q6 **【ご意見・改善提案】**  
RISTEXに対するご意見や改善提案があればお聞かせください。  
研究開発領域や関与したプロジェクトに対するご意見や、このようにして欲しかったと言う感想でも結構です。

任意

回答終了